

2016
ISSN 0918-8711
No.37

GOLD & PLATINUM



GOLD & PLATINUM



C O N T E N T S

巻頭言	3	金の投資需要にパーフェクトストーム到来か?	32
特集：貨幣博物館を歩く	4	2015年の世界の金の供給と需要	36
いまさら聞けない貴金属の基本	10	能動的に創るギフト需要	38
商品市況で内外の景気を読む	14	2015年の世界のプラチナの供給と需要	42
日本黄金史トリビア（貨幣改鑄で500万両）	17	日本金地金流通協会・沿革と活動	44
長期化する気配 金の上昇相場	18	協会役員の紹介	44
写真で見る驚きのゴールド③	22	正会員	45
金鉱床のルーツと展開	26	特別会員	46
金を巡る人物エピソード（後宮信太郎）	29	登録店	47
ゴールドシネマ③（グレース・ケリー）	30	賛助会員	51

表紙画像：江戸時代、慶長6年から発行された慶長大判。徳川家康による天下統一を象徴する貨幣とされる。（出所）日本銀行金融研究所貨幣博物館
編集・デザイン：株式会社 麴町ディレクション（澤田直良、木下裕之）／イラスト：haruka／撮影：児島一伸、高山 透

巻頭言



本年は、6月に英国のEU離脱決定というニュースが舞い込み、金のドル価格に大きな影響を与えました。

国民投票に向けて大方の予想は残留派勝利に傾き、金価格は下げ基調でしたが、投票の結果、予想に反して離脱が決定するやいなや、金価格は大幅に上がりました。その後も、景気悪化の憶測や、英国不動産ファンドの解約増、イタリアの銀行の経営不安に誘発されて、金はさらに値を上げました。しかし、その後発表された米国雇用統計の大幅改善や参院選での自民党圧勝、英国次期首相の決定などを受けて、じりじりと値を下げました。

当協会では、このように日々目まぐるしく変化する金の動きを、ホームページやメールを通して皆様にいち早くお伝えしております。

当協会は昭和54年12月に「金地金の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及」を図るために発足しました。地金商と消費者の皆様を結ぶ登録店を全国に設け、消費者の皆様安心して金地金を売買していただける環境を整備すると共に、広報委員会では法令遵守の徹底をはじめとする啓蒙活動を、実務者研修委員会では研修の定期開催をそれぞれ行っております。

今後も引き続き、当協会へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



一般社団法人
日本金地金流通協会
会長 古宮 誠一



昨年暮れ(11月21日)、日本銀行金融研究所貨幣博物館がリニューアル・オープンした。展示方法や展示内容が一新され、近ごろでは小中学生の来館も増えたと聞く。そこで改めて貨幣博物館の開館とリニューアルの経緯、古代から近世にかけての貨幣史についてお話を伺うことにした。聞き手は経済キャスター叶内さん。話の内容もさることながら、淀みなくお答えになる関口学芸員、終始温かく見守る小林館長の姿が印象的。では、ようこそ、貨幣博物館へ。



慶長大判

貨幣博物館を歩く



貨幣博物館玄関



小林 一夫館長 叶内文字子さん(聞き手) 関口かをり学芸員

日本の貨幣史を いまに伝える役割

叶内 | まず初めに、そもそも日本銀行が貨幣博物館を開館された経緯、役割などについてお伺いできますか。

関口 | 日本銀行開業100周年にあたる1982年に、金融経済の理論、制度、歴史に関する基礎研究を行う金融研究所と貨幣博物館の設立が決まりました。オープンしたのは3年後の1985年です。

叶内 | なるほど、そういうことでしたか。

関口 | そもそも日本銀行で保有している主なコレクションは、貨幣コレクター田中啓文氏の錢幣館コレクションを受け継いだものです。貨幣コレクターの方はさまざまいらっしゃいますが、田中啓文氏の場合は、貨幣はもちろん、貨幣を作る道具、貯金箱、財布、貨幣が描かれている錦絵など、周辺の民俗資料まで集めていたところに際立った特徴があります。貨幣自体についても、東アジアを

中心に広範囲に網羅されており、田中氏はまさに希有なコレクターだったと云えます。

叶内 | その貴重なコレクションを受け継ぐキッカケはどんなことだったのでしょうか。

関口 | 第二次世界大戦の戦禍から逃れるために、ご本人から日本銀行に寄贈したいとの申し出がありました。当時の総裁であった渋沢敬三が民俗学に造詣が深かったこともあり、錢幣館コレクションを謹んでお受けした次第です。そのコレクションを全面的に一般公開して日本の貨幣史を皆様に知って頂こうということで、32年前のオープンに至りました。

叶内 | そういう経緯と役割を担って開館されたのですね。そしてその後、昨年11月に大改装されたわけですが、こちらはどのような経緯があったのでしょうか。

関口 | オープンから30年経過して設備的に古くなっていましたが、大きなポイントは三つあります。一つは、展示ケースを車椅子の



1882年(明治15年)10月、永代橋際(現在の日本橋箱崎町)に開業した当時の日本銀行の建物。現在は、江戸時代の金座跡地にあたる日本橋本石町に所在。

本特集内の画像提供元

- ・貨幣および貨幣関連画像：日本銀行貨幣博物館
- ・但し、富本銭と無文銀銭の画像：奈良文化財研究所



★聞き手
叶内 文子
 経済キャスター
 日本証券アナリスト協会
 検定会員



小林 一夫
 日本銀行金融研究所
 貨幣博物館・館長



関口 かをり
 日本銀行金融研究所
 貨幣博物館・学芸員

方や小さなお子様にも見やすい構造にするなど、広い意味でのバリアフリー化を進めたこと。もう一つは、千両箱の重さ体験とか昔のモノの値段が分かる買い物体験など、参加型の展示を充実させたこと。そしてもう一つが、この30年で進んだ研究成果を踏まえて、展示内容を一新したことです。たとえば、これまで日本最古の貨幣は「和同開珎」とされてきましたが、現在では「無文銀銭」や「富本銭」などがその前に存在していたことが分かっています。

叶内 | 最新の発掘・研究成果を盛り込んで展示内容を更新されたわけですね。じつは今回展示を見せて頂くまで、少し難しい内容を予想していたのですが、とても分かりやすいと感じました。

関口 | 有り難うございます。おかげさまで昨年のリニューアル後は、学校のクラス単位とか修学旅行での班行動での来館も増えてきましたし、週末には家族連れも目立つようになりました。小学生の方が体験テーブルで楽しんだりもされています。

叶内 | 嬉しいことですね。では、そろそろ日本の貨幣史における貴金属貨幣の位置づけや、果たして来た役割についてお伺いします。

関口 | 大きな流れをざっとお話しますと、古代

には「無文銀銭」と呼ばれる銀貨や「和同開珎」にも銀貨がありました。「開基勝宝」という金貨もありましたが、はっきりしたことは分かっておりません。古代から中世というのは基本的に銅銭の時代です。金貨銀貨が歴史の表舞台に登場するのは、戦国時代に入ってからです。その頃から鉱山開発や精錬技術が一気に進み、広く作られ使われるようになるわけです。

叶内 | そもそものお金は銅銭だったわけですね。

関口 | といいますか、古代でも銅銭は全国に広がっていましたが、庶民の層まで普及していたわけではありません。米とか布といった物がお金として使われる中に、銅銭もあったということです。

叶内 | そうでした、そういう位置づけですね。ところで展示を見ていたら、古代の終わりから中世にかけての銅銭は中国から来て広く流通していた、という説明がありました。

関口 | いまの観念で見ると、貨幣は自分たちの国なり中央銀行なりが発行するのが当たり前になっています。けれど、当時の中国は先進文明国でしたから、古代の終わりや中世の日本は中国の銅銭を輸入して使っていました。じつに面白い時代です。一方、金貨銀貨が登場してくる戦国時



富本銭



無文銀銭



和同開珎 (銀銭)



和同開珎 (銅銭)

近年の遺跡発掘調査から、「和同開珎」よりも早く、古代に飛鳥で「富本銭(銅銭)」が作られ、また「無文銀銭」が使われていたことが分かってきた。

代では中央集権的な国家が確立していませんから、地方地方で貨幣が自由に作られていました。

叶内 | カオスの状態だったわけですね。戦国時代といえば、武田氏の甲州金が有名ですよ。

東の金と西の銀 江戸貨幣制度の秘密

関口 | 武田氏が甲州金の発行にどれだけ関わっていたか定かではないのですが、領国内で作られていたことは間違いありません。興味深いのは、その甲州金の単位に用いられた四進法が、そのまま江戸幕府に引き継がれて行くことです。

叶内 | 四進法がそのまま生きていくわけですか。

関口 | はい、四朱で一分、四分で一両という仕組みが、江戸幕府の貨幣単位のベースとして何百年と使われて行きます。

叶内 | それまで地方ごとで異なっていた度量衡などと一緒に貨幣制度が統一されて行くわけですね。

関口 | 金貨で言えば、甲州金があり、秀吉が室町時代から彫金を司る後藤家に作らせた天正大判があり、そして徳川家康が作らせた慶長大判があり、という形で継承されていくわけです。

叶内 | 後藤家が作っていたというのは初耳です。一子相伝みたいで面白いですね。それにしても大判の実物を見ると、迫力があって、私たちの普通の感覚のお金とは違うなという感じがします。

関口 | 基本的には大名の間での褒美や餞別として、商人の間でも贈答的な場面で用いられることが多く、実際に目にするのはごく僅かな層の人たちだったと思います。

叶内 | 象徴的な意味を持っていたわけですね。

関口 | そして近世に入ると金貨銀貨の流通が始まるわけですが、やがて江戸期でも金銀の採掘量が減っていきます。一方で経済の発展で貨幣需要は旺盛になっていき、そういった中で藩札（紙幣）が貨幣不足を補完するべく広がっていきます。

叶内 | そういう流れなのですね、よく分かりました。ところで「東の金遣い、西の銀遣い」という言葉がありますよね。

関口 | はい。東日本では昔から金が多く使われていましたが、西日本では銀が使われていました。西日本には、石見銀山などの銀山が多かったことや貿易窓口も多かったことから、銀がベースになっていたわけです。徳川家康としては金で通貨制度を統一したかったという話もあるのですが、



16世紀中頃、武田氏の領国では積極的に鉱山開発が行なわれ、額面金額を表示した金貨（計数貨幣）が作られた。

江戸時代初期、慶長年間には慶長小判、慶長一分金などと同時に、慶長丁銀、慶長豆板銀などがつくられ流通した。



時代劇でお馴染みの千両箱のレプリカを持ち上げようとする叶内さん。想像以上の重さに驚きを隠せない様子。



江戸時代の大判(実物)を手を目を輝かせる叶内さん。

最終的には西日本で根づいていたシステムを取り込むことで国を統一していくという考えに傾いたのでしょう。西日本の銀も尊重しつつ、金・銀・銭の三貨制度を確立していったわけです。

叶内 | もともとあった西の銀文化を取り込んで、貨幣制度を確立するわけですね。

関口 | 同時に銀貨は、秤量銀貨(しょうりょうぎんか：量目が一定しない銀塊を取引毎に天秤で計って使用された銀貨)から、額面金額を表示した計数銀貨へゆっくり置き換わっていきます。

叶内 | 銀の単位はもともと匁(もんめ)、重量ですものね。

関口 | 最初は計数銀貨というのは、なかなかすぐには受け入れられなかったのですが、経済が発展していくなかで利便性が認められ、また小額面の銀貨のニーズも増えていくことで、時間をかけて定着して行ったのだと思います。

叶内 | 貨幣の需要が増えて来るといのは、庶民の経済が活発化したということですか？

関口 | ご存じのように江戸時代はお米がお金のベースでもありました。一方で、商品作物と呼ばれる藍だったり紅花だったりが作られるようになると、農民も換金して貨幣を手に入れていくわけ

です。そうしたことを通じて貨幣経済が農村にも浸透して行くことになったと見られます。

叶内 | それで小額貨幣も必要になるわけですね。

関口 | 現金を入手していたのか単位上だったのか定かではありませんけれど。

叶内 | そのお金を回していたのは両替商、現在の銀行になりますよね。

関口 | その通りです。江戸幕府は、両替商をうまく使いながら、計数貨幣を市場に流していったという記録が残っています。

叶内 | 両替商についての展示説明のところに、ドルもユーロもポンドも全部一緒に日本の中で流通していたようなものだったと書かれていましたが、当時はいろんなものが混在して、ややこしい状態で、早見表が必要なくらい両替することが大変だったようですね。

関口 | そういう意味では、当時の商人や両替商は工夫を重ねながら、上手にやっていたと思います。

江戸期から変らぬ 貨幣需給への腐心

叶内 | 少し視点が変わりますが、江戸時代ではた



両替商の天秤・分銅
江戸時代では、天秤と分銅が両替商には欠くことのできない商売道具だった。



越前福井藩札
現存する最古の藩札とされる越前福井藩の紙幣。藩札の発行に際しては、藩内外の有力商人が札元(発行取扱機関)となり、発行準備金(幕府貨幣の手持ち準備金)の調達や発行・引換業務などにあたる場合が多かったという。

びたび現物の貨幣が足りなくなって改鑄をしますよね。金の純度を下げて貨幣の流通量を増やすというようなことですが、信頼という面でどうなのだろうという思いがよぎりました。

関口 | お金の流通を支えているものは、時代によって条件が違うので一概には云えませんが、信用されるということはとても大切なことです。

叶内 | とくに藩札のような紙幣になると、もう、ほんとうに信用が重要というか。

関口 | まさにその通りで、信用力のある商人が関わって発行している藩札だと額面とほぼ同等の価値で流通したりするのですが、あまり信用のない赤字の藩の紙幣の場合には額面通りには流通しないこともあったようです。

叶内 | 何割掛けとかになっちゃうわけですか。

館長 | そうですね。さきほどの貨幣改鑄について少し補足させていただくと、たしかに改鑄によってインフレが引き起こされることもあります。ですが、貨幣の供給量が経済発展について行けないとデフレになります。貨幣の需給バランスを図るのは、いつの世も難しいものなのですね。

叶内 | そうでしょうね。さて、話は尽きないのですが、あと二点だけ伺います。博物館には秘

蔵コレクションがあると耳にしたのですが。

関口 | 基本的には日本貨幣史が中心なのですが、冒頭でお話ししましたように、中国、朝鮮、ベトナムなど、東アジアの貨幣コレクションも充実しております。今後もテーマ展のような形で機会を設けて紹介していきたいと思っています。

叶内 | その他に新しい計画などがありましたら教えてください。

関口 | お金探検ツアーなど子供向けの展示とか、ワークショップのような形式で昔のお金のスタンプとか拓本体験とか、古いお金に親しんで頂けるようなプログラムなどを考えています。小学生向けの分かりやすいパンフレットなども考えて行きたいと思っています。それと、常設展示の図録の準備に取りかかりました。これは少し時間がかかるかと思いますが、完成いたしましたら、ホームページでお知らせいたします。

叶内 | 楽しみにしております。本日は貴重なお話を有り難うございました。

関口 | こちらこそ長時間有り難うございました。

叶内 | 機会があれば、こんどは江戸後期から現代までのお話を伺いたと思います。

館長 | またいつでも、ゆっくりご来館ください。



日本銀行 金融研究所
貨幣博物館

開館時間：9:30～16:30（入館は16:00まで）
休館日：月曜日（ただし祝日は開館）
年末年始（12月29日～1月4日）
※展示入替え等のため臨時休業する場合もあり。
入館料：無料（※20名以上は予約が必要）

所在地：〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町1-3-1（日本銀行分館内）
連絡先：TEL 03-3277-3037

地下鉄
交通
半蔵門線 三越前駅（B1出口）から徒歩1分
銀座線 三越前駅（A5出口）から徒歩2分
東西線 日本橋駅（A1出口）から徒歩6分
JR
東京駅日本橋口から徒歩8分

<http://www.imes.boj.or.jp/cm/>

Bank of Japan CURRENCY MUSEUM





Toshima & Associates 代表
としま いっ お
豊島 逸夫

三菱銀行、スイス銀行外国為替貴金属部
ディーラー、ワールドゴールドカウンシル
日本代表を経て現職。日経電子版「金の
つぶやき」などでの情報発信も旺盛。



初心者の質問に豊島逸夫が答える

いまさら聞けない 貴金属の基本

「有史以来、採掘された金の量はオリンピックプール 3.5 杯分」。金の業界では「常識」の部類に入る事実ですが、一般にはほとんど知られていません。そこで今回あらためて豊島逸夫氏に、初心者向け「貴金属の基本」の執筆をお願いしました。上級者として初心忘るべからず。ぜひご一読を。



金の価値って何でしょうか

A 金のことなど全く考えたこともない人が最初にいただく素朴な疑問がこれ。そこで、私は、理屈を並べず、分かりやすいエピソードを紹介しします。私がスイス銀行の貴金属為替トレーダーとしてチューリッヒで何回も遭遇した事例です。スイス人の同僚たちの自宅に招かれると、よく奥さんが分厚いアルバムを見せてくれました。その1ページ目には娘さんが生まれたときの写真と金貨が1枚貼ってあります。2ページ目には1歳の誕生日写真と、金貨がまた1枚。これを毎年繰り返し、例えば娘が30歳で結婚するときに、30枚の成長の記録と30枚の金貨が貼られたこの分厚いアルバムを、結婚式の前の晩に母から娘へ贈るのだそうです。もし、嫁ぎ先の家が傾くような事態になったら、この金貨を売って凌ぎなさい、という言葉添えて。コツコツ金貨を貯めて、「家庭内有事」に備える。これこそ、資産としての金の原点だと感じ入りました。その頃の私は、大手銀行の巨大なトレーディングルームで金相場を相手に連日博打を張る虚しい日々を送っていたので、まさに目からウロコだったのですね。

この金貨アルバムの背景にこそ、金の本質があります。金は、利息も配当金も生みません。しかし、金は、希少な貴金属で腐食しないので、その価値

が紙くずになることはないのです。なにがあっても金の価値は残るので「有事の金」といわれるわけです。



金は上がるの？ 下がるの？

A これも、頻繁にくる質問ですが、なんとか人より安く買って、人より高く売り、自分だけは儲けたいという欲望が透けて見えますね。セミナーでも、最後の10分で、価格レンジの話になると、ガバッと起きて、目の色が変わる参加者が多いです。

そこで、私は必ず説教します。年長者の特権といえますか、聴衆のほとんどは目下ですからね。「君たち、金相場を甘くみてはいけないよ。プロだって短期の相場動向を当てるのは至難の技だ。事実、私はスイス銀行でプロのトレーダーとして、少なくとも3,000回は相場を張った。その生涯成績といえば、およそ1,600勝1,400敗だ。8勝7敗で御の字。勝ち越しを12年間続けることが、どれだけ大変なことか。2連敗したら3連勝しないと負け越しになる。売買する額がハンパではないから、そのときのプレッシャーは、経験した者でないと分からない。プロは、相場の厳しさを身を持って経験しているので、自分自身の資産運用となると、意外に地味なものだ。私の元同僚



本コーナーの写真2点：豊島逸夫氏提供

たちも、金を買うなら積みたいなドルコスト平均法と決めている連中が多い。

Q 金を買うべき理由とは何か？

A これもしばしば聞かれる事です。答えは簡単。金は儲けるものではなく貯めるもの。投資というより保険に近いといえます。金を持っていても利息も配当金もつかないのだから、投資とは言い難い。でも、リーマンショックのような危機的状況が起きると金価格が上昇して、株や債券の損失を補ってくれます。だから、欧米では、金は嵐の晩に輝く、と言われるのです。それゆえ、保険に近い役割といって良いでしょう。

なお、資産運用の世界で、金保有はあくまで脇役です。主役は配当などを生み出す株や債券。それゆえ、金保有は、資産全体の10%程度に留めるべきです。よく、株か、金か、どちらにすべきか、と聞かれますが、答えは、株も、金も、です。二者択一ではありません。両方持って、初めて、財産全体のリスクが分散されるのです。どちらかに偏ると、大勝ちも出来るが、全負けという悲惨な状況にもなりえます。株と一緒に保有することで、主役を支える脇役がいい味を出すのです。

アベノミクスが始まってからは、私はセミナーで、「アベノミクスの成功を信じて日本株を買い、

失敗したときに備えて金も買っておこう」と呼びかけてきました。最近、後者の確率が上がってきたことが気がかりです。

Q 誰が金を買っているのか？

A 人間は好奇心の塊です。いったい、どうい
う人が金を買っているのだろうか。気になります。さぞかし、お金持ちの人たちなのだろう。(ここで少しいじけて) まあ、私には関係ない、手が届かない別世界だ、と思いがちなのですね。ところが、親戚とか同僚とか身近な人が金を買ったという話を聞くと、「むむむ、私だけ取り残されているのか」と不安になったりするのです。「よそさんは、どうなんでしょうか?」。これも良く聞かれる質問ですね。

そこで、まず、身近なところからいうと、普通のOLやサラリーマン、商店主などが、毎月3,000円ずつ金を積み立ててゆく事例が増えています。更に、世界に目を向けると、金を大量に買っている国は中国とインド。それも、普通の人たちが銀行貯金のように、自然なカタチで、金や金製品を少しずつ買い増して貯めています。決してお金持ちではありません。着ているもので分かります。ユニクロのようなカジュアルなウェア。スーパーで買い出しの帰りなどに気楽に来店します。アラブの女性たちも金好きですね。あの黒の民族衣装の下に身に着けているのが、じゃらじゃらゴールドジュエリーだったりするのです。宗教上、人前で肌を晒せませんから、せっかくの宝飾品も見せびらかすことは出来ません。それでも、ゴールドが好きなので身に着けるのですね。こういう需要は根強いですよ。

一方、NYの金取引所に行くと、そこには新興国とは全く異なる人たちが、金の現物ではなく先物を売買しています。アラブの人たちとは真逆で、金そのものに特に愛着を感じているわけではありません。ただ、てっとり早く、安く買って、高く

売り、儲けたい。何でも良いのです、株でも外貨でも金でも、儲かりそうな投資があれば。こういう金の需要は脆いものです。たとえばヘッジファンドといわれるプロの投機集団が、大量に金を買って漁っても、早晚、必ず売り払います。短期決戦で、儲からないとみれば、サッサとよそへ移ってゆきます。新興国のような長期保有ではありませんから、彼らが金を買って価格が急騰しても、早晚、急落して、結局チャラになるのです。

世界で金を買っている人たちは、およそ、この2種類に分かれることを覚えておいてください。金価格を長期的に上げてゆくのは新興国の人たち。一方、メディアは派手なNYでの先物投機を好んで報道しますから、個人としては、情報の見極めが大事ですね。

Q 金の生産が増え続けて、価格が下がることはないのか？

A 金の供給について、埋蔵量はどのくらいあるのか、と、よく聞かれます。地球上に未だ大量の埋蔵量は確認されているし、これから、新たな鉱脈が見つかる可能性もあります。但し、その殆どは、海底になります。日本でも、最近、伊豆半島沖や沖縄海域の海底に金を豊富に含むミネラル層が発見されたことが報道されました。これが、原油だと、液体ですから海底をドリルで掘れば、噴出してくれます。ところが、金鉱石は固体です。しかも、金鉱石1トンから純金が3グラムも抽出できれば御の字の世界です。従って、途方もない採掘コストがかかるので、海底に存在が確認されても、鉱山会社としては、全く採算に乗らず、新規開発計画もなかなかあがってこないのが実情です。但し、金価格が2,000ドルとか3,000ドルになれば、生産も増えるでしょうね。

更に、金は腐食しないので、ひとたび採掘された金は地球上のどこかに残り、高値になれば、リサイクルとして市場に還流してきて供給が増え価格が下がる要因になります。ここが、金が、同じ

「コモディティー＝商品」というカテゴリーでも、原油と決定的に異なる点です。原油は燃えたら何も残りませんから、古代に発見された原油が未だに現存してリサイクルで市場に戻ってくるなどということは考えられないのです。それゆえ、原油のほうが価格の上げスピードは遥かに早いわけです。金は、そう簡単に価格が倍になることはありません。長期的に見れば、金価格のほうが原油より値動きが派手ではないけれど安定的ともいえます。だからこそ、ジックリ貯めるべきものなのです。

Q プラチナが金より安いようだが、どちらを買えばよいか？

A 金よりプラチナが安いという異常な状況が続いています。もはや、プラチナ・カードのステータスはゴールド・カードより低くなってしまったのでしょうか。プラチナより金を買うべきなのでしょうか。

結論から言うと、プラチナの希少性のほうが遥かに優るので、いずれ正常な状態、つまり、プラチナの方が高いということに戻るでしょう。従って、プラチナの安値には買いの値頃感があります。

そもそも、なぜ、こういうことになってしまったのかといえば、投機マネーが思惑でプラチナを売りまくったからです。しかも、彼らはプラチナ現物を持っていないのに、売る約束をしてしまったので、期日までには、プラチナを買わねばなりません。ところが、プラチナの生産は南アに全体の7割を依存しています。その南アは、アパルトヘイト（人種隔離政策）撤廃後も、人種問題が依然くすぶっており、政情は不安定です。鉱山労働者のストライキなどが生じると、プラチナ生産も滞ることになります。そうなると、プラチナを売りまくっていた投機マネーが、一転、買い攻勢に転じる可能性があるのです。

但し、プラチナは市場が小さいので、値段が激しく変動します。心臓の弱い方にはおすすりできません。

貴金属ポートフォリオとしては、安定的な金と、値上り期待のプラチナの両方を保有することで、バランスがとれた資産運用になると思います。

Q 金本位制に戻ることはあるでしょうか？

A 無いです。金本位制の時代に比べ、現代の経済は遥かに大きくなりました。金は限られた量しか存在しないので、世界の通貨として流通するには、足りません。ただ、大量の金が依然として外貨準備として保有されており、しかも、その外貨準備としての金保有量が毎年増えているということも事実です。やはり、金の裏付けのない紙幣だけが流通する通貨制度は、あまりに人間の信用への依存が強すぎるということでしょうね。

金本位制に戻ることはありませんが、金は「商品」であると同時に「無国籍通貨」でもあります。かくいう筆者も、スイス銀行で外国為替部門に配属され、ドル、円、ポンドなど通貨ごとのセクションに分かれていたのですが、たまたま「金」という外国為替の通貨担当になったことが、そもそも、この世界に深入りするキッカケでした。なお、プラチナを外貨準備で保有する国はありません。プラチナはあくまで産業・宝飾用の素材で、「コモディティー＝商品」なのです。ですから、経済危機が勃発すると、無国籍通貨の顔を持つ金は「安全資産」として買われますが、プラチナは景気悪化による需要減を懸念して売られるのです。

Q 相続問題で悩んでいます。金は資産継承で有効でしょうか？

A これは、自信を持ってYESと言えます。金は3つの点で不動産に比べ相続資産として優れています。まず、金には固定資産税がかかりません。次に、金は金貨を何枚も保有することなどで、小分けできるので、公平な相続が出来て、もめごとのタネを少なくできます。そして、不動

産は売りたくても、買い手を見つけるのに苦労するモノですが、金現物であれば、その日の価格ですぐに売ることが出来ます。相続税が強化されつつあるので、近年は、小型金塊や金貨を相続に使う事例が増えているのです。

Q そもそも、どこで金を買えばよいのですか？ 保管も心配です。

A 最近では先物業者が現物の金を販売する事例も増えていますが、やはり、日本金地金流通協会の会員店が最も信用できるので安心でしょう。金販売にあたっては、なんといっても「信用」が大事ですから。多少の販売手数料の差より、信頼できる店で、信頼できる金地金を購入することが王道です。現物の保管で盗難リスクが心配であれば、信頼できる業者の現物保管サービスを利用することを勧めます。なお、筆者の友人で、世界的に著名な「投資の神様」といわれるジム・ロジャーズ氏も、世界中を駆け回っているのに、金の現物は日本で買うに限ると明言していますよ。



彼はもっぱら金の仏像とかお箸、ワインカップなどを娘の将来の為に買ってゆきます。長期保有するのなら、なにか役立つ、あるいは見て楽しめるカタチが良いというのです。工芸品はコスト高になるので、投資としては損ではないか、と聞くと「数十年後には金価格が今よりはるかに高くなっている。多少の手数料や製造コストなど微々たるものだ。」と自信満々に笑い飛ばしていますよ。

商品市況で 内外の景気を読む

日本経済新聞社
編集局編集委員

志田 富雄 (しだ とみお)



日本経済新聞社の中で編集局商品部は総勢30人ほどの部署だ。記者はそれぞれ担当分野を持ち、モノやサービスの相場を日々取材する。自動車や家電の生産に使う冷延薄鋼板が現在1トンいくらからいなのか、水準を調べ、相場が動いたときにその要因を探る。その意味は個々の商品の相場を解明するだけでなく、さまざまな物価の動きを継続して追うことで景気の先行きを占えることにある。

商品部が調べる物価は、消費者物価指数(CPI)を算出する土台になるテレビやパソコンなど最終製品の価格より、鉄鋼や石油化学製品など原燃料の価格が中心になる。こうした原燃料はある程度均質な商品(コモディティ)であるため価格を調べやすく、企業が原燃料として絶えず調達・消費し、市場での取引が活発であるため景気の変化を敏感に映すからだ。もちろん、冷凍食品のような最終製品の店頭価格も景気の影響を受けて変化するものの、景気が良くなって原燃料の需要が増加→原燃料相場が上昇→食品メーカーが原燃料の値上がりを製品に転嫁するため値上げを表明→小売りや卸会社などの納入先と交渉して店頭でも値上がり、といった過程をたどるため価格の変化には時間がかかる。

個々の動きが大きな波に

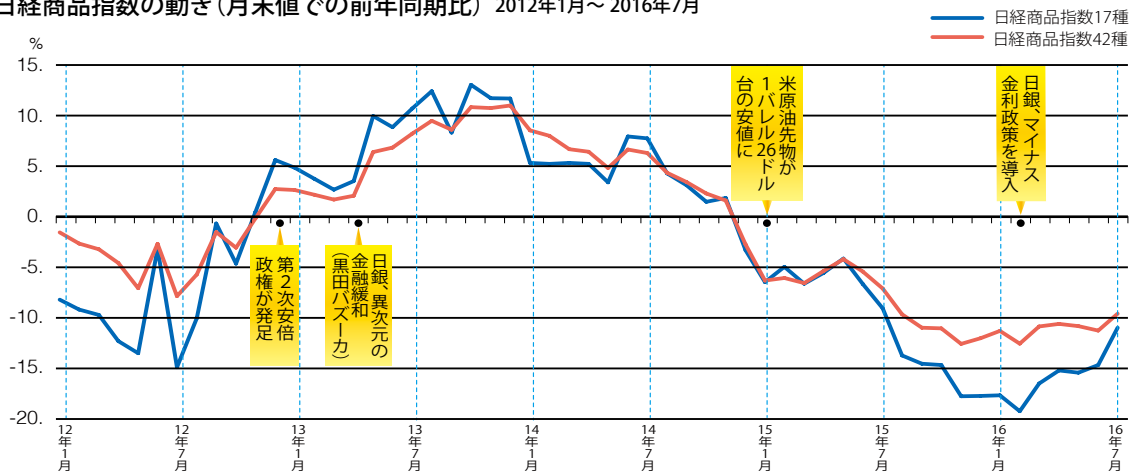
企業の調達担当者は景気が上向く実感を得ると仕入れ量を増やす。たとえば、景気が良くなれば自動車やマンションのカタログ、チラシなどが増え、紙の消費量が増える。個々の企業の動きは大

きな波となって需要が拡大し、原燃料の相場を押し上げていく。ただ、相場の上昇が続くとやがて企業の採算は苦しくなり、消費者の負担も増して消費が冷え込む。そうなると原燃料の需要は減り、相場が下落する。しばらくすれば企業のやりくりは楽になり…という循環を繰り返す。商品相場と景気の変化は密接にからんでいる。

商品部記者が取材した相場は鉄鋼などの主要な17商品、石油化学製品などを含む42品目で指数を算出し、それぞれ日経商品指数17種、42種として日本経済新聞社が公表。42種は内閣府が公表する景気動向指数の先行系列の指標として採用している。先行指標は実際の景気の波より少しだけ先行(先読み)して動く景気指標だ。

個々の商品相場も景気の変化を先取りして動く。ただし、それぞれの商品、鉄鋼や穀物、石油にはその市場独自の要因も働き、「クセ」が出やすい。それを全体の動きとしてとらえることが商品指数の役割だ。日経商品指数は円建ての国内取引価格で算出するため、それが映すのは基本的に「国内景気」だ。もちろん、国内景気は世界経済の影響を強く受け、円高・ドル安が急速に進めば日経商品指数と同じく「下振れ圧力」が強まる。日経商品指数から景気を読む場合、前年同期比で変化を追うとわかりやすい。ここ数年の変化をみれば第2次安倍政権発足のあたりから上向いた変化は2013年秋でピークアウトし、今年春で底入れしたかどうか、という状況にある。ただし、このまま回復軌道に乗るかは予断を許さない。

■日経商品指数の動き(月末値での前年同期比) 2012年1月～2016年7月



昨年後半から原油相場が急落し、その影響は株式相場にも及んだ。先の説明のように原燃料の値下がりには時間がたてば企業採算を好転させ、景気の押し上げ要因になる。ただ、今年の初め、原油相場の急落に株式市場が動揺したのは、商品相場の下落が世界経済の減速を象徴するものだからだ。円高・ドル安に触れた朝のニュースでもしばしば「原油相場の下落を見て世界経済に対する不安感が強まり、安全性が高いとされる円を買う動きが活発になりました」という解説を聞く。原油だけでなく、銅や鉄鉱石などの国際相場が軒並み下落した理由は「中国や欧州を中心に世界の景気が思ったよりよくない」という実感が市場で強まったからだ。

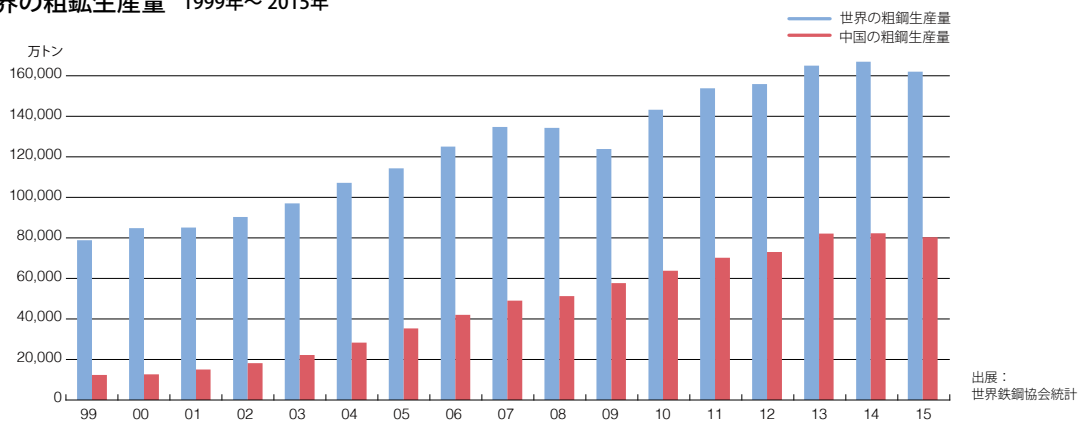
長期低迷を回避するには

景気と物価は時間差をもって循環する。ただ、循環には短期のものから中長期の波まであり、そ

れが複雑に絡み合う。原油の国際相場が14年夏の半値以下、2008年夏に記録した史上最高値に比べると3分の1の水準に急落した変化は中長期の変化を示唆する動きとみていい。1980年代から90年代まで、世界の粗鋼生産量は7億トン前後の水準が続いた。2億トンほどの水準から飛躍的に伸びた戦後の高成長が石油危機で頭打ちとなったためだ。この20年間は日本の鉄鋼産業が大規模なリスストラを迫られた「鉄冷え」と言われた時期にあたる。

生産量は今世紀に入って高い伸びを取り戻した。2000年に初めて8億トンを突破し、04年には10億トン、11年には15億トンと加速した。その原動力は工業化を推し進めた中国だ。グラフ(次頁)をみて分かるように増加の大部分は中国が占める。ところが原油などの資源相場が急落を始めた14年あたりから、様子がおかしくなった。これまでの高成長を前提にした投資に対し、需要

■世界の粗鉄生産量 1999年～2015年



の伸びが鈍り、供給過剰に陥ったからだ。

中国の習近平政権は高成長を追うこれまでの路線を修正し、投資過熱を抑えて安定成長をめざす。ただ、ソフトランディングに成功するか否かは油断を許さない。国内景気には底打ち感があるが、このまま上昇軌道に乗るとは言い切れないのと同じだ。株価などの年初の動揺は、市場がそこに不安を強めたからにはほかならない。少なくとも原油相場の急落は「中国など新興国を中心に世界経済の拡大が続く」というシナリオが修正され、成長ペースが鈍くなったことは間違いない。

国際商品相場が80～90年代のような長期低迷を回避するためには、世界が抱え込んだ過剰生産能力を解消しなければならない。中国が抱える鉄鋼などの過剰設備の川上には資源供給能力の過剰がある。過剰解消には世界経済が勢いを取り戻すか、既存設備の整理を急ぐか、どちらかのアプローチが必要だ。国際商品相場の低迷が世界経済の勢い鈍化を意味するとすれば、後者のアプローチがより重要になる。

経済不安が生んだ金とプラチナの格差

これまでのドル高や新興国経済の変調の影響で米国経済の様子もおかしい。米国経済の復調が遅れ、利上げペースが想定よりも先延ばしになれば「ドル安」が商品相場の押し上げ要因になる。それでも、米国経済の足踏みは世界需要の拡大を鈍らせ、商品需給の改善を遅らせる。基本的には相場に下げ圧力をかける要因だ。世界経済への不安が相場の押し上げ要因になるのは「通貨の顔」を

持ち、逃避マネーの受け皿となる金くらいだろう。それが同じ貴金属でも自動車の排ガス触媒が主力で産業素材の色彩の濃いプラチナ（白金）との温度差につながっている。

金と比べた鉱山生産量の少なさ（希少性）や生産コストの高さから、貴金属市場ではプラチナが金相場を上回る状態が正常とされる。プラチナの需要は自動車の排ガスを浄化する触媒や石油化学などの工業用途が6割強を占める。一方、金の工業用途は1割にすぎない。世界の景気が良くなり、自動車の販売が伸びればプラチナ相場はぐんと押し上げられる。同時に危機時のマネーの受け皿となる金の役割は後退する。米国の住宅バブルを起点に世界が同時好況に沸いた2005～07年にはプラチナと金価格の差（プラチナの方が高い正常な状態）が一時1,000ドルを超えた。

しかし、米国の住宅バブルが崩壊し、リーマン・ショックや欧州の金融危機、さらには中国経済への不安で様相は一変した。昨年からは金がプラチナを上回る逆転現象は過去に例がないほど長期化し、その差は一時1トロイオンスあたり345ドルに達した。過去20年間では日本が金融危機にあった1997年にも両者の相場が一時逆転した。97年当時の日本は世界最大のプラチナ消費国（現在は中国）であり、市場では日本の金融危機→需要減少の連想が働いたからだ。産業素材であるプラチナ相場の動向、また金との値差がどう変化するかに着目することも世界景気を読む材料になる。逆に世界経済が勢いを取り戻さないとプラチナ相場の本格的な上昇は描きにくい。

「インフレーターゲット」などというおかしな言葉はなかったものの、貨幣を増やし、景気をよくして財政を立て直した男がいます。それが元禄時代に活躍した勘定奉行萩原重秀です。

江戸幕府は初代家康、2代秀忠の時代に大判小判を溜めに溜めましたが、3代將軍家光が上京や日光東照宮の造営などで、湯水のように使い、幕府財政を

悪化させました。そのうえ、金銀が海外に流出、国内の産金量も減少しました。そのトガが5代將軍綱吉の時代に表面化したのです。

この時、萩原が行ったのが金融緩和ならぬ貨幣の改鑄でした。まず、大判で改鑄、次いで小判でも行いました。家康が造らせた慶長小判は1両が17.9グラムで、15.5グラムの金を

含有していました。それを重さは同じで金の含有量を10.2グラムに落とし、それを前と同じ1両としたのです。

この改鑄で幕府は約500万両の出目(=鑄造利益)を得たとされています。

元禄時代は生類憐れみの令があり、47士の討ち入りもありましたが、概して平和で太平の世をおう歌していました。それ

貨幣改鑄で500万両 財政を立て直した

おぎわらしげひで
萩原重秀

1658-1713 (万治元年-正徳3年)

おかもと まさふさ
岡本 匡房

1964年慶應大学経済学部卒、同年日本経済新聞社入社、日経産業消費研究所商品研究部長兼日経ゴールドレポート発行人。現市場経済研究所主幹。



も改鑄で物価は上がったものの、流動性が増し、総じて景気が良かったからです。

しかも、物価高は「貯蓄から投資」への流れを生み、これも景気をよくしました。作家堀屋太一はそれを高度成長に沸いた昭和と並べ合わせ“昭和元禄”なる言葉をつくっています。

物価上昇は景気を良くしますが、同時に犠牲者を生みます。

大坂では倒産も多く、貧乏人は生活が苦しくなりました。現代流に言えば格差が拡大したのです。

萩原は新井白石の攻撃で6代將軍家宣の時代に失脚しました。白石は「萩原は26万両を横領した」といっていますが、真偽は分かりません。

萩原失脚後、政権を担った新井白石と8代將軍吉宗は改鑄で

貨幣の品位を高めましたが、その結果、流動性が不足、世は大不景気になりました。堀屋太一は不況の平成時代と並べ合わせ、“平成享保”なる言葉もつくっています。

萩原は「貨幣が流通するのは金の含有量によるのではなく信用による」との趣旨を言っています。経済の本質がよく分かっていたのです。

長期化する気配 金の上昇相場

マーケット・ストラテジ・インスティテュート代表
金融・貴金属アナリスト

亀井 幸一郎 (かめい こういちろう)



今年のはじめ 1,061.5 ドルで取引を開始した NY 市場のドル建て金価格（以下、金価格）。その後も上下動を繰り返しながら 7 月 6 日には 1,377.5 ドルに達し、8 月 23 日時点でも 1,340 ドル台を維持している。6 ヶ月以上にわたる上昇相場という点では、過去最高値 1,923.7 ドルを記録した 2011 年以來となる息の長い相場が続いている。この上昇相場をもたらしている背景は何だろうか。そして上昇はまだ続くのだろうか。

それを考えるために、右頁のチャートをご覧ください。いただき説明するところから始めよう。

年始以降の上昇に加わった 6月の「イベント反応型上昇」

チャートにあるように 2016 年に入ってここまですり上がりトレンドが続いている金市場。世界的に株価が急落し為替相場が大きく乱高下した 6 月の EU（欧州連合）離脱をめぐる英国の国民投票は記憶に新しい。よもや EU 離脱を選択するとは、世界中の多くの人々が思っていなかった結果に、金融市場は大荒れ状態となった。そうした混乱に強いのが金で、株式市場や債券市場から大量の資金が流れ込み、急騰することになった。それまで上下動を繰り返しながらも徐々に水準を切り上げ 1,200 ドル台半ばに位置していた金価格は、一気に 1,300 ドル台での本格的な取引に移行した。

このいわゆる“Brexit（ブリゲジット）”騒動の折に記録したのが 3 年 1 ヶ月ぶりの高値とな

る 7 月 6 日の 1,377.5 ドルであり、ここまでのところ年初来の高値となっている。

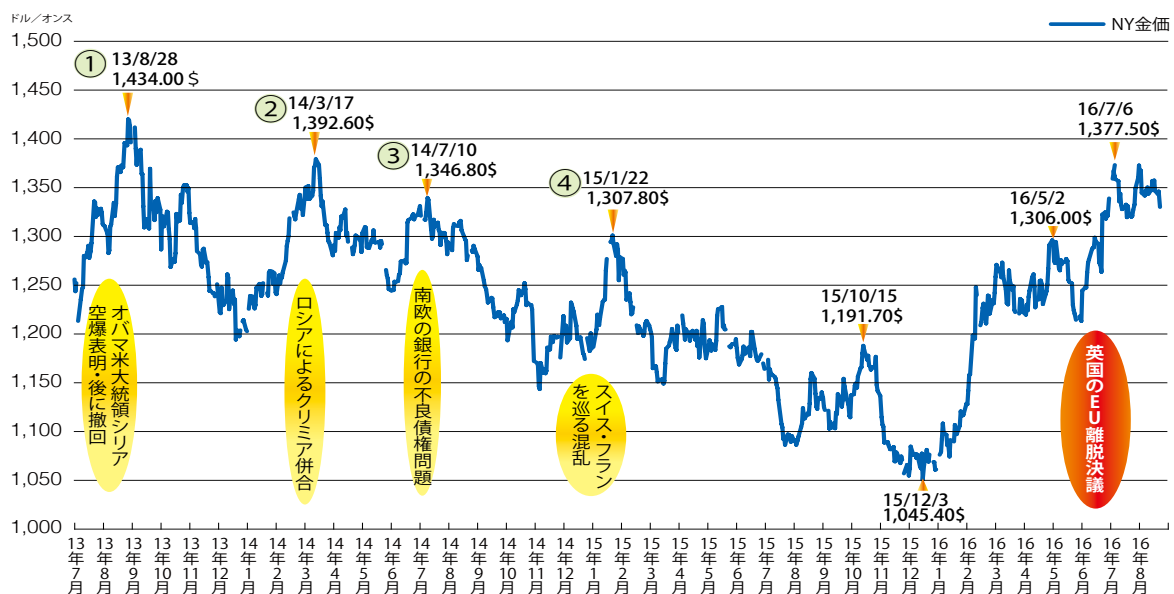
何か特別な事件や事故すなわち「イベント」が発生し、それに反応する形での価格上昇を、「イベント反応型（event-driven）上昇」とここでは名付けることにする。実は年始から続く金価格の上昇トレンドの中で、（英国の国民投票の結果が判明した）6 月 24 日以降の急騰が、今年に入って初めての「イベント反応型上昇」という位置付けとなる。

過去 3 年間を振り返ると、チャート上の節目となる高値には必ず何らかのイベントがからんでいたことがわかる。遠いものから順を追って表裏すると右頁のようになる（図 1・表 1 参照）。

そしてここに今回の“Brexit（ブリゲジット）”が加わることになった。「有事の金」という言葉があるが、地域紛争や戦争など地政学的要因と呼ばれるものを含め、こうしたイベント反応型（event-driven）の上昇は、持続期間が比較的短期に終わることが多いのが特徴だ。それは、イベント発生による金融市場や経済への影響度合いを市場が先読みして織り込みにかかること、またイベントに反応してファンドが先物市場にて「買い（買い建て＝ロング）」を一気に増やすことで、過熱感が高まり市場内部の需給要因の悪化（買いに偏る）から、警戒感が高まりその後の急落につながりやすいことによる。

こうした急騰相場一巡後の下げ局面を「調整局面」と呼ぶが、実際にチャートに示した 4 例は、

■NY金価格の推移 2013年7月～2016年8月（図1）



上昇の後に比較的大きな下げ（調整）に見舞われているのが見て取れる。

イベント発生で膨らむ「買い」は将来の「売り」要因

■直近4回見られたイベント反応型上昇（表1）

- | | |
|---|---|
| ① | 13年8月28日 ▶ 1,434.00ドル
オバマ大統領シリア大規模空爆宣言 (後に撤回) を受けた上昇 |
| ② | 14年3月17日 ▶ 1,392.60ドル
ロシアによるクリミア実質併合騒動を受けた上昇 |
| ③ | 14年7月10日 ▶ 1,346.80ドル
南欧諸国の銀行の不良債権問題を受けた上昇 |
| ④ | 15年1月22日 ▶ 1,307.80ドル
スイス中央銀行 (SNB) による為替の無制限介入の終了宣言の混乱に乗じた上昇 |

今回“Brexit (ブリグジット)”後にNY金市場の先物の買い建て取引は急増し、米CFTC（商品先物取引委員会）のデータでは、7月5日時点のファンドの買い越し残は重量換算にして過去最高を更新する982トン（オプション取引を除く）まで膨らんだ。先物取引の「買い建て」は将来の“売りで決済される”もの。1,000トン近い売り予約が控えるとなると、さすがに上値は重くなる。

折しも“Brexit”判明以降に発表されたアメリカの景気の動向を映す雇用統計が、6月さらに7月と2ヵ月連続で大きく改善されていたことから、米FRB（連邦準備理事会）による年内利上げ観

測が意識され、金市場の上値は急速に重くなることになった。にわかに調整局面入りが濃厚になったのである。金利を生まないのが金のデメリットだが、ドル金利の上昇を意味するアメリカの利上げは、大きな売り要因になることによる。

さて問題はここからだ。英国のEU離脱騒動というイベントで1,300ドル超に駆け上がった金相場。上記のようにすでに調整局面入りしているといえよう。でありながら、本稿執筆時点（8月24日）で1,300ドル超を維持していることから、下げ幅が限定的なものにとどまっているのも事実である。つまりチャートに示した先の4例とは様相が異なっているようにみえる。実際に7月6日の高値からここまでの安値は1,310.7ドル（7月21日）と“Brexit（ブリグジット）”前の1,300ドル割れには至っていない。

イベント反応型より息の長い 「マクロ型上昇」相場

この“強さ”は何を意味するのか。

それは今回の上昇相場が、もともとイベント反応型ではないことがある。今年の1月29日、日本銀行はマイナス金利という前代未聞の政策の導入を発表した。実は、この発表を期に海外金市場でファンドの買いが活発化した事情がある。銀行と中央銀行との間とはいえ、預金に金利は付かず手数料を取られるという異例の事態は、日本銀行が策に窮した結果であり、そこまで追い込まれたのかという印象を与えたことによる。「金融政策の限界説」と表現したほうがわかりやすいかもしれない。これまで日銀は、年間80兆円もの国債を銀行から買い取って来た。その買い取り資金は理屈の上では新規に刷った札を渡すことで、世に大量の資金を供給し、もってデフレから抜け出そうという策である。

ところが銀行は、日銀に国債を売却して得た資金を民間に貸し出したり投資せず、そのまま日銀の口座に残すということをやってきた。それだけで0.1%の利息を稼ぐことができたからだ。しかし、これでは日銀が意図する政策効果は期待でき

ない。ならば今後は新規に口座に現金を残せば0.1%の手数料を取るぞ、というのが当座預金のマイナス0.1%金利というわけだ。しかし、この政策もここまでのところさしたる改善を示すことなく、むしろ一般が異例の政策に警戒してしまい、消費を控えるというマイナス効果を生んでいるのが実情だ。

この1月末の日銀のマイナス金利導入以降、ファンドに象徴される欧米投資マネーの流入拡大で上値追いを鮮明にした金市場。それは日銀のみならずECB（欧州中銀）またFRB（連邦準備理事会）による金融政策にも落としどころが見えないという不透明感を同時に映したものといえるだろう。実際に当初2016年中に4回の金利引き上げを想定していたFRBは、結局、年末までに1度引き上げできるか否かという状況に追い込まれている。米国経済は成長しているが、利上げするほどの過熱感が感じられないことによる。また、欧州で頻発するテロや“Brexit（ブリグジット）”に向けた具体的な交渉が始まった後に流動化する可能性が高いEU情勢。さらにトランプ旋風など、政治的な不安定要因も金価格を支えている。いずれも一過性とはいえ、過去3年間のトレンドの中で見られた上昇相場とは質的に異なるゆえ、息の長い相場となりそうだ。名付けらば「マクロ型上昇」相場ということろか。

曲り角に立つ日銀の政策 財政と直結している日銀の金庫

ここで国際金市場にも影響を与え始めている日本の状況を深掘りしてみよう。

さて年間80兆円もの国債を買い取る日銀だが、これは以前発行された国債に加え、新規に発行されている国債を加えての数字となっている。今年の6月末で日本国政府の抱える借金は1,053兆円となっている。GDP（国内総生産）の2倍以上の規模で、世界最悪となっている。危機に陥ったギリシャでもGDP比では1.6倍だった。

借金の内訳で多いのが赤字国債（正式名称は特別国債）で816兆円となっている。いま日本国

■日本銀行の「マイナス金利付き量的・質的金融緩和策」の主な内容 (2016年8月末時点)

政策目標		2%の「物価安定目標」実現するまで実施	
金利		マイナス金利 - 0.1%	金融機関が保有する日銀当座預金にマイナス金利を適用
量			年間約 80 兆円に相当する額をマネタリーベースに追加する
質	国債	保有残高	年間約 80 兆円に相当するペースで増加するよう買い入れ
	株式ETF (上場投資)	保有残高	年間約 6 兆円に相当するペースで増加するよう買い入れ
	Jリート (不動産投資)	保有残高	年間約 900 億円に相当するペースで増加するよう買い入れ

※マネタリーベースとは？・・・市中に出回のお金（紙幣、硬貨）と金融機関が日銀に預ける当座預金の合計

は年間予算の3分の1にあたる30兆円超を新規の国債発行で賄っている。これだけ借金の規模が膨らみ、なおかつ財政健全化プランも政治の都合で掛け声倒れを繰り返す中で、本来であれば将来の返済に対する懸念から国債が売られ、価格下落から利回りが上昇するというのが一般的なパターンといえる。それがそうならず、むしろバブルとの表現ができるほど額面を超えて相場が上がっているのは、日銀の強力な買いがあることによる。その結果、2016年の2月から10年以下の期間の国債はすべてマイナス利回り状態にある。マイナス利回りというのは、額面金額を超えて価格が上がっており、満期（償還）時に額面金額が手元に戻った際の差損分を利息でカバーできないことを表している。いまや新規発行分の国債も当初からマイナス利回り化している状況にある。

その最後まで持てば損をする国債を、銀行や証券会社が引き受けるのは、なぜか。それは、すべて日銀に転売でき、利益が得られるからだ。しかし、この割高な国債をどんどん買い取る日銀はどうなる？日銀の一手買い状態によりマイナス金利が維持されている債券市場で、日銀が買いを減らすだけで価格は急落し、利回りは急騰するだろう。それは日銀の国債持ち分の評価損が急拡大することを意味する。年末までに日銀の国債持ち分は430兆円に膨らむとみられるが、そうなれば総発行量の半分に達することになる。どこまで続けるのかという疑問の声が早晩高まることだろう。

中央銀行が財政赤字の補てんのために国債を直接引き受けることをマネタイゼーションと呼ぶ。ルーズな財政支出につながり、将来の破たんを制

御不能のインフレを招く可能性が高く、禁じ手とされる。実際に日本でも財政法で禁止されている。

しかるに現状はというと、入札によって発行された国債を、日銀は最短で翌日には買い取っている（買い切りオペ）。確かに、直接引き受けではないが、1日の違いでしかない。買い取り対象になるまで10数日かかることもあるが、最長でも約1ヵ月程度となっている。このような形で予算不足を補っている日銀の国債購入は、すでに実質上のマネタイゼーションの域に入っているといえよう。この政策をさらに進め、政府の返済負担をなくそうというのが、ヘリコプター・マネーだが、それはさらなる禁じ手である。

今年の6月に三菱東京UFJ銀行が、国債特別入札業者（プライマリー・ディーラー）の座を財務省に返上し話題となった。こうした状況にさすがに動かざるを得なかったと見られる。以前であれば、国債価格の急落を招いたであろうこの返上騒動だが、何の影響もなく過ぎたのは、やはり日銀の存在がある。わが手を緩めることが、波乱の糸口となりかねない日銀。それゆえ、この政策の出口はまったく見えないのが実情となっている。それゆえ、国際金市場の関心事にもなっている。日本の波乱は、世界の波乱でもあることによる。

長期化した超緩和環境がもたらす波乱への警戒は日米欧共通のもので、まさにマクロ要因。金保有へのインセンティブとなっており、それゆえ今回の金の上昇相場は上下動を交えながらも息の長いものとなりそうだ。



写真で見る 驚きのゴールド ③

撮影：児島 一伸

ゴールドは、はるかなる古代文明の時代から、現代に至るまで、
たんに財産の交換・保存手段として存在していたわけではありません。
太陽のごとく永遠の輝きを放ち続ける特異な性質から、
神秘的な儀式や晴れの舞台には欠かせない存在でもありました。
アジアや日本の驚きのゴールドの世界、とくとお楽しみください。



ミャンマーの古都バゴーにある「シュエモード・パヤー（仏塔）」の門番とも云うべき金獅子。口の中に座る黄金の僧像は何を表現しているのか。



1200年以上の歴史を誇る古都バゴーにある仏塔の一つ。
黄金色に燃え立つ炎のようなフォルムは一見の価値あり。



築城400年の節目に復元された熊本城本丸御殿の最深部にある「昭君之間」。加藤清正が豊臣秀頼を迎え入れるために作ったとする説がある。真偽は不明。



大和郡山にある金箔張りのらんちゅう像「幸福の金魚」。金運向上のパワースポットとされる。



「緑と彫刻のあるまち」を標榜する熊本・津奈木町には、現在16体の彫刻が町内に存在する。この金箔像「爽風(そうふう)」は、あけぼの橋の欄干に設置されているもの。彫刻家・故岩野勇三作。



金の限りなき可能性

奈良・當麻寺の練供養会式に登場する黄金面の観音菩薩。浄土三曼荼羅の1つ、當麻曼荼羅(たいままんだら)を、一夜で織ったとされる伝説上の人物・中将姫が極楽浄土へ旅立つさまを再現する1シーン。毎年命日の5月14日に営まれている。



2015年「大坂の陣400年プロジェクト」で登場した金箔の御座船(和船)。屏風絵に描かれた秀吉愛用の「鳳凰丸」がモデルで、金箔約3千枚が貼り付けられているとのこと。

金鉱床のルーツと展開

海洋火山学者 熊本大学准教授
横瀬 久芳 (よこせひさよし)

1990年、岡山大学にて火山学と地球化学を融合し学術博士を取得。その後、研究領域を海洋地域に広げ、海洋火山学を創設する。2000年から開始した海底火山の資源探査では、常識を破る浅海域からレアメタルに富む鉱石を2011年に発見。2013年秋、その模様が「NHKスペシャル」で特集された。著書には「ジバングの海～資源大国ニッポンへの道」(講談社+α新書)や「はじめて学ぶ海洋学」(朝倉書店)があり、スーパージェネラリストぶりが垣間見られる。



現代のゴールドラッシュ

ゴールドラッシュと言えば、川原で砂金掘りをする光景を思い浮かべるだろう。最近でもディスカバリーチャンネルが「ゴールドラッシュ～人生最後の一獲千金」というドキュメンタリー番組を放送している。アラスカの道なき荒野で、中年から初老の男性6人組が、砂金で一儲けを狙うという内容だ。とても採算に見合うプロジェクトとは思えないが、掘り出された砂金が画面上できらりと光るのを見ると思わず興奮してしまう。

大々的に金の採掘をするには、合理的に事を運ぶ必要がある。そのためには、金鉱床のタイプにあった採掘方法を選ばなければならない。

生産コストで決まる金の採掘方法

採算に見合う金の採掘は、川原の石を拾うのとはワケが違う。鉱石の採掘から、選鉱、そして精錬等の工程が必要で、膨大なコストをかけて、はじめて金塊となる。砂金として例外ではない。砂金は多くの場合、銀などと合金を作っているため精錬工程が不可欠で、米粒ほどの分量の砂金では精錬代の方が高がついてしまうのだ。

市場価格が5,000円/グラムだとしても、すべてが利益になるわけではない。売値から生産コストや物流コストを差し引いてようやく利益が残る。だからコスト削減はいつでも共通する課題だし、もっと言えば金価格の変動は鉱山の生死を分ける大問題でもあるのだ。

鉱床発見のニュースで、「この鉱石には、金が5グラム/トン程度含まれており有望視されています！」といったコメントを見聞きする機会も多いことだろう。しかし、鉱石中の平均的な金含有量だけで有望かどうかは分からない。なぜなら、鉱石そのものの埋蔵量が1,000トン程度しかなければ、設備投資分を回収する前に閉山の憂き目に会ってしまうからだ。

鉱石の採掘方法には「坑道掘り」と「露天掘り」の二種類があり、生産コストを加味して両者は選択される。坑道掘りは、地中に穴を掘って鉱石の濃縮部分を掘り進んでいく方法で、地下深部に局所的に存在する鉱石の採掘に使われる。一方、露天掘りは、地表近くを広く掘り進んでいく方法で、コスト面では圧倒的に有利である。セメント鉱業が石灰岩の山を掘っているのを思い浮かべてもらえば理解しやすいだろう。

金鉱床の形成プロセス

金の総生産量が100トンを超えるワールドクラスの金鉱床には、「砂鉱床」、「鉱脈鉱床」、「ポーフリーカップパー鉱床」の3タイプがある。

砂鉱床は、川原の窪地にたまった砂金が採掘対象となるもので、本稿オープニングで紹介したアラスカの例がそれにあたる。岩石中に存在した金鉱石がバラバラに砕けて川底などに二次的に堆積した鉱床で、重たくて酸にも溶けない金は、川底の大きな窪地に溜まりやすい。川原などで小規模に露天掘りされるのが一般的だ。

**産金量
ベスト10
(2015年)**

1位	中国	460.3
2位	オーストラリア	273.8
3位	ロシア	268.5
4位	米国	214.0
5位	ペルー	170.5
6位	南アフリカ	167.5
7位	カナダ	157.2
8位	メキシコ	133.2
9位	インドネシア	113.0
10位	ブラジル	95.0

出典：World Gold Council "Interactive gold mining map" 単位：トン

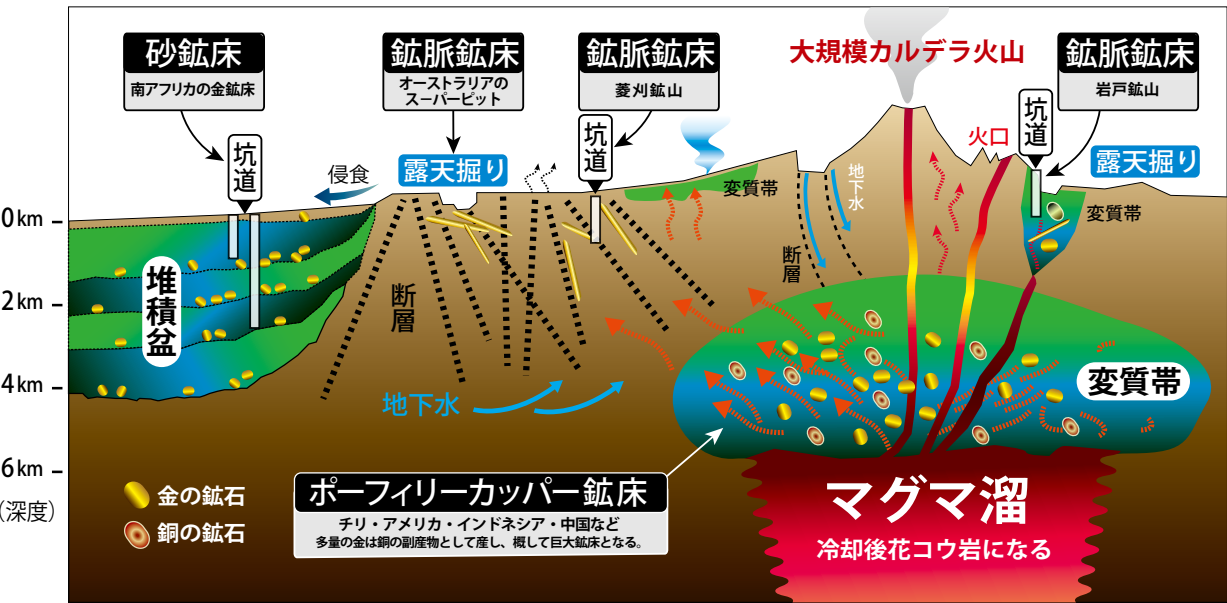
鉱脈鉱床は、地中の割れ目に浸透した熱水から金が沈殿して鉱床が形成される。鉱石の品位は高いのだが、鉱脈の幅がさほど大きくないため坑道を使って採掘される。

そして、現在もっとも重要な金の供給源となっている鉱床タイプが、「ポーフリーカッパー鉱床」(斑岩銅鉱床)である(図参照)。そんな名前、聞いたことも無いという人が大部分だろうが、世界の金生産はポーフリーカッパー鉱床が握っていると言っても過言ではない。この鉱床は、巨大なマグマ溜の直上に形成される。しかし、金の粒を肉眼で確認することは難しく、平均的な鉱石品位は鉱脈鉱床の十分の一にも満たない。そんな低品位鉱石を加工するには、低コストの採掘法である大規模露天掘りしかない。

それでは、3つの鉱床タイプを詳しく見て行くことにしよう。

砂鉱床なのに世界1位の埋蔵量

現在地表にある砂鉱床は、ワールドクラスの金鉱床になるようなものではない。しかし、約30億年前に形成された南アフリカの金鉱床だけは別格だ。1886年に南アフリカのヨハネスブルグ近郊のウィットウォーターランド堆積盆で金鉱石が発見されて以来、金生産国と言えば南アフリカが代名詞になった。2006年までのデータでは、過去120年間に5万トンの金が掘り出されている。そして地下6km付近に存在する鉱石まで考慮すると埋蔵量は10万トンを超し、いまだに世界第1位のポテンシャルを誇っている。(注)



しかし、砂鉱床は地層の境界部分に薄く存在する 경우가多く、なかでも構成粒子の粗い礫岩を指して坑道を掘り進めなければならない。これまでの採掘によって、浅い鉱床は掘りつくされ、坑道深度はすでに3,000メートルを越えた。坑道は、露天掘りに対して人件費だけで50パーセントほど割高となる。さらに坑道が深くなればなるほど、設備投資にコストが嵩（かさ）んで来る。そのため、2006年まで産金量世界第1位を死守してきた南アフリカであったが、2007年には中国に追い抜かれ、2015年には世界7位にまで落ち込んだ。金の埋蔵量は豊富にあっても、コストが嵩んでは掘るに掘れない状況になってしまう。

金鉱床の形成プロセス

2015年の産金量で世界第2位のオーストラリアは、鉱脈鉱床タイプの金鉱床が主体である。とくに西オーストラリア州に広がる30～26億年前のとても古い地層（イルガン地塊）にはワールドクラスの金鉱床が18箇所も存在し、この地域だけでオーストラリア全体の6割強の金を産出する。なかでもカルガリーの近隣にあるスーパーピット鉱山では、1990年の試算によれば、それまでに1,400トンの金が産出されたと報告されている。鉱脈鉱床であるスーパーピット鉱山が、長さ3.5キロ、幅1.5キロ、深さ0.6キロの（衛星画像でも見えるほど）巨大なすり鉢状の露天掘りで採掘されているのは、極めて珍しいケースだ。

なぜスーパーピット鉱山が巨大露天掘り形態になったか。そこには鉱石の地質環境の特殊性と鉱山の経営環境の変化という二つの要因があった。

鉱石の地質要因は、密に発達した断層帯が、広い範囲に渡って、金を含む熱水の通り道を立体的な網の目状に発達させたことにある。

経営環境の要因は、1980年代までにはジリ貧となっていた個別坑道群を、オーストラリアのビジネスマンであるアラン・ボンドが買い上げて一元化したことにある。つまり経営統合できたことで、より生産コストの低い露天掘りへの移行が可能となったわけだ。これにより、採鉱深度が10メートル程度しかなかった個別坑道が、露天掘り

に変更されたことで対象エリアが飛躍的に拡大して利益に繋がった。そしてついに閉山寸前の鉱山地域全体が復活を果たしたのだ。

銅の副産物として採掘される金

2013年に世界で最も多くの金を産出した鉱山は、パプアニューギニア島にあるインドネシアのグラスベルグ鉱山で、鉱床のタイプはポーフィリー銅鉱床である。グラスベルグ鉱山は、海拔4,000メートルに開発された超巨大な露天掘り鉱山で、長さ3.5キロ、幅2.5キロ、深さ1キロに達する巨大なすり鉢状だ。この鉱山は、銅の産出量でも世界第3位のワールドクラス。金と銅の埋蔵量は、それぞれ2,000トンと2,400万トンで、桁外れに大きい。察しの良い方はすでにお分りだろう。銅とは銅のことである。

このタイプの鉱床は、途轍もなく多量に産する銅の副産物として金や銀が回収できる、一粒で二度おいしい鉱山なのだ。そのため、最近ではチリ、メキシコ、米国、フィリピン、モンゴル、チベット、ウズベキスタン、インドネシアなど世界の至る所に、巨大なすり鉢鉱山が出来ている。それらの多くが、産金量の多い国として台頭している。

露天掘りでは、空間を自由に使えるため、積載量300トンクラスの超大型ダンプトラックなどを導入でき、しかも無人の遠隔操作も可能だ。そのおかげで、鉱山にありがちな事故などからの危険性からの回避が可能で、コスト削減がさらに進む。巨大露天掘りにとって大事なことは、鉱石の総量であって品位ではないのだ。

つまり、巨大ディスカウントショップが桁外れの薄利多売をやっているのが「ポーフィリー銅鉱床」と言っても過言ではない。

金の生産においては、このように鉱床のタイプと採掘方法をマッチングさせて最大の利益を模索している。とはいえ、さすがのポーフィリー銅鉱床でも、手軽に掘れる場所が地球上で見つからなくなりつつあるのも事実だ。いずれはプラチナと同様に金でも、宇宙空間で採掘する時代が訪れるであろう。

(注) Safonov and Prokof, 2006 (Geology of Ore Deposits)

昭和初めの金融混迷期、日本列島はゴールドラッシュに襲われる。金1匁(もんめ、3.75グラム)が5円から12円にハネ上がる。政界の惑星といわれた三木武吉が金山経営に乗り出したかと思うと、「いれずみの又さん」小泉又次郎(小泉純一郎元首相の祖父)が金塊とともに海底に沈んだリュウベック号の引き揚げに血道をあげる。芥

川賞作家尾崎一雄の作品「懶(ものう)い春」には、夕刊のチラシに「金暴騰、今が売り時」とあるのを見て新妻が金歯を質入れしてどら焼きを買いたいと言いつくだりが描かれる。

金狂騒曲の高まる中で、米どころ新潟県北魚沼郡川口村牛ヶ首に貴金属商が殺到する。「彼らの神経はいやが上にも興奮し、興奮は等比級数的に増加し、

越後の牛ヶ首へと出掛ける。出掛ける」*(井上吉次郎著「金の社会学」)

これにはわけがある。牛ヶ首の旧家に伝わる記録に「家屋、宅地、田畑を売却しても、先祖の塚は売るな。そんな羽目に陥ったら塚を掘れ」とあって、実際、地下6尺(約1.8メートル)から大判、小判、小粒が詰まったかめが出てきた。これを

昭和ゴールドラッシュと金山王

うしろくしんたろう 後宮信太郎

1873-1960 (明治6年-昭和35年)

なべしま たかはる
鍋島 高明

1936年高知県出身、59年早大政経卒、同年日本経済新聞入社、商品部次長、編集委員、日経総合販売を経て、97年市場経済研究所代表取締役



伝え聞いた業者が越後路に押し寄せたのである。

そして「昭和の当たり屋」の極め付けとしてクローズアップされるのが金山王後宮信太郎。後宮は京都府出身、同志社を中退、台湾に渡り、煉瓦製造に従事、高砂ビールを設立したあと、金瓜石鉱山を買収する。そしてゴールドラッシュの到来でこの金山を久原財閥系の日本鉱業に売却する。

売却額は現金で600万円、日本鉱業株20万株(時価75円)

で計2,100万円だった。現在の価値に直すと200億円から300億円になる。そのうえ、日鉱株が118円にまで上昇したため、株価の上昇分860万円が上乘せされる。

8年前、後宮が台湾銀行から250万円借金して買い取り、短期間で10倍強に売れたのだから、マスコミは「台湾の借金王から金山王へ」と持ち上げた。大正9年のパニックではあやうく死地を脱出できた強運の後宮は大金をつかんだあとも

事業欲は衰えない。今度は朝鮮に進出、500万円を投下して金山開発に着手する。

昭和9年、「金山王後宮信太郎」と題する伝記が出版される。はしがきにこうある。

「領有40年、台湾の生んだ唯一の成金後宮信太郎はその富貴2,000万円と称せられる。彼は多年の奪闘結成し、一気にこの巨富を握る」

陸軍大将後宮淳は金山王の実弟に当たる。

* 引用文は原文のまま

グレースが愛した婚約指輪

米国フィラデルフィア生まれの内気な少女が、やがて世界の女性たちの憧れの的となります。

後年の華やかな姿からは想像し難いものがありますが、幼い頃のグレースは人見知りが激しく、いつも母親の背中に隠れるような子でした。なぜか実業家でタフガイの父親からは疎んじられていましたが、劇作家の叔父には可愛がられ、影響を受けるうち、いつしか転機がやって来ます。

求めているものが親から得られないと観念した時、人はその飢餓感を埋める衝動に駆られ、外の世界へ飛び出したくなるものだと云います。

グレースもその例に漏れず、両親の反対を押し切って、18歳で単身ニューヨークへ。そこでモデルのアルバイトをしながら演技を学びます。22歳でハリウッドデビュー。監督や作品に恵まれたこともありますが、持ち前の気品と美貌を武器に、またたく間にトップスターへの階段を駆け上がり、出演6作目の「喝采」でゴールデングローブ賞とアカデミー賞の同時受賞を果たします。

共演者リストに目を向ければ、ゲーリー・キューパー、クラーク・ゲブル、ジェームズ・スチュアート、ウィリアム・ホールデン、ビング・クロスビー、ケーリー・グラントなど、当代切つての名優が綺羅星のごとく並んでいます。グレースを起用した監督も、フレッド・ジンネマン、ジョン・

フォード、アルフレッド・ヒッチコックと、映画史上にその名を留める名人揃いです。

なかでもヒッチコックはグレースにすっかり惚れ込み、「ダイヤルMを廻せ!」「裏窓」「泥棒成金」の3作品に起用しています。その理由をジェームズ・スチュアートが語っています。「グレースはなにしろ勘が良かった。いちいち細かく指示されなくても監督の意図を察して動けたから。ヒッチコックはそこを気に入っていたね」と。

そんな前途洋々の女優人生も、しかし、わずか5年間で終止符が打たれます。ヒッチコック監督作品「泥棒成金」のロケーション撮影中、モナコ公国大公レーニエ3世と出会ったことが、人生で二度目の転機となります。グレースは、モナコ公国大公妃という、まさにお伽話のような煌びやかな現実を手に入れることになったのです。

ところでグレースといえば、日本鬣貞として知られています。それかあらぬか若い頃より真珠を身に着けるが多かったようです。けれど、生涯大切にした宝物といえば、レーニエ3世から贈られた婚約指輪。10.47カラットのエメラルドカットのダイヤモンドリング。台座はノーブルなプラチナ。彼女はこのリングを心から愛し、最後の出演作となった『上流社会』では、自ら願い出て、本番中も身につけていたということです。

Grace Kelly



グレース・パトリシア・ケリー (Grace Patricia Kelly, 1929年11月12日～1982年9月14日)。アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィア出身の女優。その気品に溢れた美貌と知性から「クール・ビューティ」と賞賛され、またたく間にトップスターの座へ駆け上がった。人気絶頂のさなかモナコ大公レーニエ3世と結婚し女優を引退した。

金の投資需要にパーフェクトストーム到来か？

ワールドゴールドカウンシル

顧問

森田 隆大 (もりた たかひろ)

金価格は2011年9月に1トロイオンス1,900ドルを超える最高値を付けたあと、昨年暮れに1トロイオンス1,000ドル台半ばまで下げた。今年に入ってからは急上昇し、8月中旬現在1,350ドル近辺で底堅く推移している。金価格が再び構造的な上昇傾向を見せる最大の要因は、不安定なマクロ環境を背景とした投資需要の増加である。ETF（上場投資信託）を含む総投資需要は、2016年の第1四半期および第2四半期において、ともに宝飾需要を上回った。2四半期連続して投資需要が宝飾需要を超えたのは、史上初めてである。

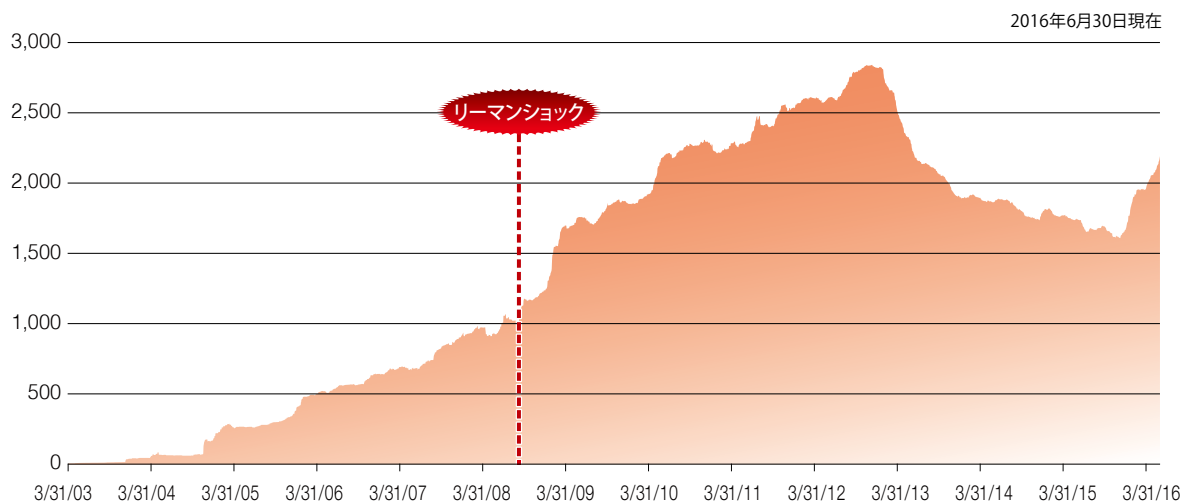
躍進するETF需要

投資需要の中でも、特に金ETFの躍進が目立った。現物の裏付けがあるETFの金保有残高（図1参照）を見ると、2012年にピークを付けたあと、2013年から2015年まで連続して大幅に減

少したが、2016年に入り再び資金が急速に流入して、6月末までに580トンほど増加した。半期としては、過去最高の数字である。個人に加え、機関投資家の積極的な購入も目立った。ジョージ・ソロスを始め、多くの有名な投資家が率いるヘッジファンドも金市場に参入した。機関投資家の多くは、金が投資に持つ根源的な役割であるポートフォリオ分散効果やリスクヘッジが、現在の政治・経済環境において極めて有効であると評価したのである。

100年に一度の金融危機と呼ばれたリーマン・ショック時には、質の逃避先として金市場に多くの投資資金が流入したが、必ずしも金がポートフォリオ投資に果たせる役割を評価した結果ではない。そのため、世界経済や金融市場が再び安定したならば、当然ながら、資金は再び金ETFから株や債券などの他資産に流出する恐れがあった。2013年から2015年にかけてETF金保有残

■ ETF金保有残高推移（図1）



出所: Respective ETP providers, Bloomberg, LBMA, World Gold Council

※パーフェクトストーム：2000年に制作された米国映画のタイトルが一般名詞化。複数の厄災が重なりあって起き破滅的な事態に至る状況を指す。近年ではリーマン・ショックなどにも比喩的に使われる。

■ポートフォリオ投資における金の役割 (図2)

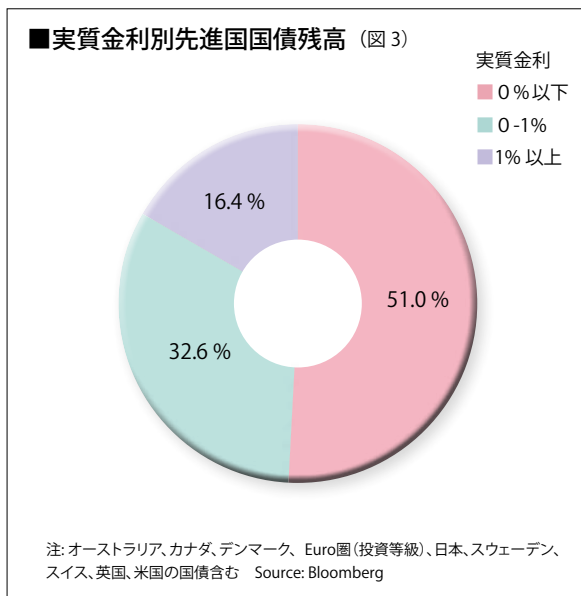
ポートフォリオ・リスク	金の特性
分散リスク	主要資産との相関が低い
テールリスク	テールリスクイベントヘッジ
信用リスク	信用リスクのない資産
インフレリスク	実物資産
通貨リスク	発行体のない通貨としての金
流動性リスク	高い流動性

高が減少した理由はここにある。しかしながら、年初来の投資需要増はリーマン・ショック時とかなり異なった理由を背景としており、投資需要が高レベルで持続する構造要因となる可能性がある。

不確実な投資環境で力を発揮する金

それでは金の投資における役割を整理しよう。金はキャッシュフロー（金利・配当など）を生まない資産だが、投資家が金を保有する動機は、大きく六つある（図2参照）。①金価格が株式や債券など主要資産との値動きの相関が低いことを利用した「ポートフォリオ分散効果」、②万一の危機に備えた「テールリスクの回避」、③債券のように発行体の破綻リスクがないことを生かした「信用リスク」の回避、④貨幣購買力の下落に対処する「インフレリスクの回避」、⑤通貨価値の下落に備える「通貨リスクの回避」、⑥売りたいときに適切な価格で売ることができる「流動性リスク」の回避である。現在の投資環境において、多くの投資家にとって、投資の大原則は分散とリスクヘッジである。金はこうしたニーズに応えられる資産である。

債券は本来、低リスクかつ安定リターンが得られ、株価の値動きと逆相関するため、分散効果が期待され、ポートフォリオ安定資産と考えられていた。ところが、日銀を含む世界主要国の中央銀行がマイナス金利政策を導入したことを受け、機関投資家が債券投資運用難に陥ったため、ポートフォリオ運用リスクを軽減する「クッション」としての役割がだんだん果たせなくなってきた。実際、主要国の国債の約半分が実質ベースでマイナス金利圏に突入している（図3参照）。社債の利回りも大きく低下しており、投資家はリターンを得るためには、より高いリスクの債券にシフトせざるをえない。そのため、多くの機関投資家は投資戦略を根本から再検討しており、一部は債券の代替投資先として、株などの主要資産と相関性があまり無い金に注目し始めた。また、ポートフォリオ運用をしている機関投資家が、これまで金を買わなかった理由として、「金は何も生まない。金利も配当もない」からだったが、マイナス金利でそのハードルが下がり、金に相対的な魅力が生じている。マイナス金利がしばらく継続する見込みを多くの機関投資家が持っているため、ポート



フォリオにおける資産配分の戦略的な見直しはこれから本格化すると思われる。金に対する投資需要はこうした構造要因によって支えられていくだろう。

注目される金のリスクヘッジ機能

また、リーマン・ショック以降、従来の金融枠組みのなかで手を打ち尽くした各国の中央銀行は、量的金融緩和政策(QE)といった異例の手段に打って出ることによって、なんとか物価を安定させ、雇用を最大限に増やそうと試みた。最近では、2014年半ばから2016年初めにかけて、ユーロ圏、日本などの中央銀行がマイナス金利政策を実施した。しかし、マイナス金利政策の導入は、当局の金融政策の手詰まりとして多くの投資家に捉えられ、マクロ経済環境の不確実性はむしろ増加したと判断された。2016年3月6日に発表された『BIS Quarterly Review』には、「金融市場では各国の中央銀行が有効な

政策手段をほぼ使い果たしたのではないかとの憶測が広がっている」と記され、BIS金融経済局のクラウディオ・ボリオ局長はその翌日、中央銀行の信用が「揺らいでいる」と述べた。さらに、2016年6月に英国の欧州連合(EU)離脱決定という予想外の事態も加わり、マクロ環境に対する投資家の懸念に拍車をかけた。他に、中近東の政情不安も緩和されておらず、11月にはトランプ旋風が止まない米国大統領選が予定されているため、投資家はテールリスクに対する備えを強く意識するようになった。テールリスクヘッジに実績がある金は、選択肢の一つとなるだろう。

エネルギー価格の大幅下落を受け、多くの資源国で財政状態が悪化している。格付会社フィッチ・レーティングスのレポートによると、コモディティ価格の下落を主因に2016年上半期のソブリン(国債)格下げが15カ国に達し、通年ベースの格下げ数は過去最高を更新する可能性があると言っている。該当国の金融機関・企業に対する格付けも低下している。米国においても、世界経済の環境変化を受け、エネルギー関連を中心にハイ・イールド債のデフォルト率(債務不履行)が上昇している。また、英国のEU離脱に伴い、英国国債・社債の信用力が低下し、さらなる格下げも予想されている。EU諸国の国債および企業の信用力についても、格付会社が時間をかけて再評価していくと思われる。これから数年、英国債の格下げは、連鎖的にヨーロッパを中心とした国・企業の信用力の再評価をもたらす恐れがある。日本においても、国債の信用力が警戒レベルに達したと考える投資家が増加している。このように、

信用リスクは投資において無視できない考慮点となった。信用リスクを持たない金が力を発揮できる環境になったとも言えよう。

マイナス金利を含む非伝統的な金融刺激策を取る世界各国の中央銀行は、国の経済成長をサポートするため、どこも過去にないほどそのバランスシートを大きく膨らませている。しかしながら、政府の経済運営において成果が上がらなければ、やがて中央銀行の信用力が傷つき、通貨に対する不信感が生まれ、最悪の場合ハイパーインフレを招く可能性があることが懸念されている。高いインフレ率を経験したことのあるドイツ語圏の投資家及び政府債務比率が先進国中で一番高い日本の投資家に警戒感がとりわけ強い。両国とも、金投資需要がここ数年堅調に伸びている。経済運営の成果がなかなか見えない中、各国の中央銀行が非伝統的な金融刺激策からの出口戦略を問題なく実行できるかどうかについては、様々な議論がなされているが、楽観論が減少している。もともとインフレリスクヘッジは投資の大基本ではあるが、ますます注意を払う必要がある環境になった。インフレに強い現物としての金は、ますます投資戦略において議論される対象となろう。

金価格は米ドルと逆相関の関係にあり、米ドルが上昇する時には金価格が下落し、米ドルが下落するときは金価格が上昇する。意外かもしれないが、米国の金投資需要がここ数年増加している要因の一つは、米ドルの価値下落に対する投資家の警戒感である。また、金の国際価格は基本的に米ドル建てのため、現地通貨がドルに対して下落した場合、(ドル建ての金価格が一定と仮定)現地通貨ベースの金価格は為替の変動を受け上昇す

る。金の保有は、ドルに対する現地通貨の価値下落に対するヘッジとして有効である。インドやトルコなど、通貨価値が激しく変動している新興国の金投資需要は、こうした効果が評価された結果でもある。また、リーマン・ショックやユーロゾブリン危機で主要通貨の信頼性が弱まり、英国の離脱でユーロに対する信頼低下がさらに増幅される中、新興国を中心に中央銀行は外貨準備において主要通貨からの分散を引き続き行っており、金に対する需要を下支えしている。各国の為替政策が経済運営と密接に関係する中、世界の政治・経済状況の影響を受けない通貨としての金は、為替ヘッジの手段として注目されるのは決して意外ではない。

リーマン・ショック時に、多くの資産が急激な価格下落に見舞われる中、ヘッジファンドが顧客からの解約請求に応えるため、保有する金を大きな値崩れもなく売却し、解約資金の一部を手配したことはよく知られている。金は市場混乱時にも流動性を確保できる資産として、いっそうの脚光を浴びた。マクロ経済環境の不確実性が増し、テールリスク・イベント発生の可能性も懸念される現状において、流動性リスクに対する備えとして金を意識する投資家が増加してきている。西側諸国の制裁を受けているロシア中央銀行も、金の保有を増やしている理由の一つとして、対外流動性の確保を挙げている。

以上のように、投資家が金を保有する動機がかつてないほど広がっている。投資に果たせる金の6つの役割がすべて当てはまる投資環境は、過去にあっただろうか？ 金の投資需要に、パーフェクトストームの到来を感じる。

2015年の世界の金の供給と需要

2015年の金相場は好調なスタートをきったが、その後は1年の大半を通じてドル建て金価格が下落基調を辿った。投資家心理は引き続き米国の金融政策に左右され、米国がほぼ10年ぶりに利上げに転じるとの見通しとドル高によって、金価格と商品相場全般が下押し圧力を受けた。金価格の下落によって、2015年の金の供給量は全体で前年比2%減となったが、価格に敏感に反応する中古金スクラップの供給量は前年の水準をやや上回った。中古金スクラップの供給量が増加した主因は、自国通貨安によって自国通貨建て金価格が上昇した国からの供給が増加したことにある。とは言え、昨年の供給量は1,173トンにとどまり、これまでの水準を大幅に下回った。他方、6年連続で増加していた鉱山生産量は2015年下半期に伸びが止まり通年で前年の水準をわずかに上回ったに過ぎなかった。さらに、生産者がヘッジ解消に転じたことも供給量が減少する要因となった。

2015年の現物需要は前年比で2%減少し、2010年以来の最低水準まで落ち込んだ。もっとも、減少ペースは2014年の17%減から大幅に縮小した。宝飾需要は引き続き低調に推移。主因は中国の需要が低迷を続けていることにあり、2015年に世界最大の金消費国の座をインドに譲った。小口投資需要は前年の水準をやや上回ったが、これは主にアジアの株式市場での大幅な株価調整を受けて金融市場の不安定さが高まったことに加え、金価格が下落したこと、押し目買いが米国を中心に活発化し、地金型金貨の需要が増加したためである。しかし、金地金に対する需要は低調なままで、2014年とほぼ変わらない水準にとどまった。これは商品投資に対する投資家の慎重な姿勢とリスク資産への関心の再燃を反映したものである。小口投資需要以外では、公的部門の需要が2015年に増加した。公的部門は6年連続で金を買越し、2015年の正味購入量は金本位制終了以降で2番目

◆世界の金の供給と需要の推移

単位：トン

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	
供給	鉱山生産量	2,497	2,498	2,427	2,608	2,734	2,829	2,850	3,042	3,131	3,158
	中古金スクラップ	1,189	1,029	1,387	1,764	1,744	1,705	1,701	1,303	1,158	1,173
	正味生産者ヘッジ	-434	-432	-357	-234	-106	18	-40	-39	104	-24
	供給合計量	3,252	3,095	3,457	4,138	4,372	4,552	4,511	4,306	4,394	4,306
需要	宝飾品	2,334	2,458	2,338	1,849	2,064	2,064	2,036	2,470	2,242	2,166
	工業用加工量	482	489	475	423	476	468	425	418	399	361
	エレクトロニクス	334	341	331	291	342	339	303	296	285	253
	歯科・医療	61	58	56	53	48	43	39	36	34	32
	その他の工業用	87	89	89	79	86	86	84	85	79	76
	公的部門の正味需要	-365	-484	-235	-34	77	457	544	409	466	483
	小口投資	429	437	924	844	1,231	1,572	1,356	1,790	1,101	1,115
	金地金	237	237	667	561	944	1,245	1,050	1,408	851	851
	コイン	192	200	257	283	287	326	305	382	251	263
	現物需要	2,880	2,899	3,501	3,082	3,848	4,560	4,361	5,087	4,207	4,124
	現物の過不足	372	195	-44	1,056	523	-9	150	-780	187	182
	ETFの在庫構築	260	253	321	623	382	185	279	-880	-157	-124
	取引所の在庫構築	32	-10	34	39	54	-6	-10	-98	1	-48
ネットバランス	79	-48	-399	394	88	-187	-120	198	344	354	
金価格 (LBMA 午後、米ドル/オンス)	603.56	695.39	871.96	972.35	1,224.52	1,571.69	1,668.98	1,411.23	1,266.40	1,160.06	

出所：GFMS、Thomson Reuters ※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
正味生産者ヘッジは鉱山会社のゴールドローン、フォワード・ポジション、オプション・ポジションが現物市場に与える影響の推移を示しています。

(コメントは、GFMS GOLD SURVEY 2016日本語ダイジェスト版より抜粋)

の高水準となった。

正味の需給バランスに関しては、2015年も2013年、2014年に続いて供給過多となった。したがって、弱気相場が続いていることは予想外なことではない。とは言え、昨年の金相場は引き続き、2016年の明るい見通しに向けた土台を築いた。



2015年の供給のポイント

—2015年の鉱山生産量は前年比1%増の3,158トンとなり、7年連続で増加したが、増加率は最低であった。

—2015年の産金コストは4%低下して1,310ドル/oz、トータルキャッシュコストは前年の水準から5%低下して707ドル/ozであった。

—鉱山会社のヘッジ活動は2015年は24トンのヘッジ解消に転じた。

—世界全体の中古金スクラップ供給量は2015年に1%増の1,173トンとなり、2009年以来の増加に転じた。

2015年の需要のポイント

—2015年の現物総需要は前年比で2%減少した。主因は宝飾品加工量の減少にあるが、この減少を部分的に補ったのが、中央銀行の購入量とコイン需要の増加であった。

—米ドル建て金価格が下落したにもかかわらず、2015年の宝飾品加工量は前年の水準からさらに3%減少して2,166トンまで落ち込んだ。

—工業用需要は2015年に前年比10%減と大幅に落ち込んだ。主因は、エレクトロニクス部門において安価な代替素材への移行が進んだことにある。

—現物金地金投資、すべてのコイン、ETFの在庫構築を含む確認可能な投資需要は2015年に合計で5%の適度な伸びとなった。主因は、ETFの売却ペースが減速したことにある。金価格が下落して、下半期に1,100ドル/ozを割り込んだことから、コイン需要が旺盛になり、これを原動力として小口投資需要もわずか1%ながら増加し、投資需要全体を支える要因となった。

—公的部門の正味購入量は2015年に4%増加し、金本位制終了以降では2番目の高水準となった。

◆日本の金の供給と需要の推移

単位：kg

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
供給										
新産金	129,082	145,535	80,983	87,118	93,152	86,687	66,311	53,136	57,797	74,777
再生金	50,459	36,885	39,127	18,409	16,193	18,931	18,195	14,033	14,113	17,891
輸入金	13,612	12,178	10,890	4,833	1,596	1,518	2,212	8,373	987	3,980
国内流通(受入-払出)	-12,636	14,332	60,099	17,791	11,020	23,740	51,606	51,432	28,055	90,913
供給合計量	180,517	208,930	191,099	128,151	121,961	130,876	138,324	126,974	100,952	187,561
需要										
消費者需要	182,907	186,888	137,514	87,841	97,110	77,200	70,135	48,109	45,482	44,964
電気通信機器・機械部品用	126,258	125,165	84,903	54,979	60,868	46,649	38,364	28,466	27,462	26,756
歯科・医療用	12,939	12,039	11,731	10,354	9,784	8,300	8,893	7,982	7,648	7,988
メッキ用	17,597	22,276	13,836	4,798	5,596	2,718	3,703	2,305	1,551	2,390
消費者需要その他	26,112	27,408	27,044	17,711	20,862	19,534	19,175	9,355	8,821	7,829
準消費退蔵	28,127	29,010	28,530	21,483	23,396	32,453	21,673	18,473	13,082	9,102
宝飾用	22,412	23,121	22,423	16,264	20,038	15,395	11,021	9,036	7,394	7,220
美術工芸用	1,724	1,411	1,209	1,018	1,049	946	846	841	981	1,056
メダル用	910	752	484	692	383	248	181	29	453	68
準消費退蔵向けその他	3,082	3,726	4,414	3,509	1,926	15,865	9,625	8,566	4,254	759
私的保有(退蔵-退蔵放出)*	-63,394	-65,257	-50,637	-27,542	-36,353	-52,208	-7,468	1,546	-6,287	11,556
退蔵(+)	38,573	36,287	69,446	47,471	44,249	50,423	38,352	56,546	35,599	40,688
退蔵放出(-)	101,967	101,544	120,083	75,014	80,602	102,631	45,820	55,000	41,886	29,133
計	147,640	150,641	115,407	81,782	84,153	57,445	84,340	68,128	52,277	65,622
輸出	57,682	63,923	77,739	46,083	39,997	66,284	64,201	60,894	71,481	120,495
需要合計量	205,322	214,564	193,146	127,865	124,150	123,729	148,541	129,022	123,758	186,117

出所：経済産業省「貴金属流通統計調査」 ※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

*「退蔵」とは個人の現物購入、「退蔵放出」とは個人の現物売却を指します。ここでは売買の動きを示す観点から両者ともプラス表示とし、その差分を「私的保有(退蔵-退蔵放出)」として表しています。

能動的に創るギフト需要

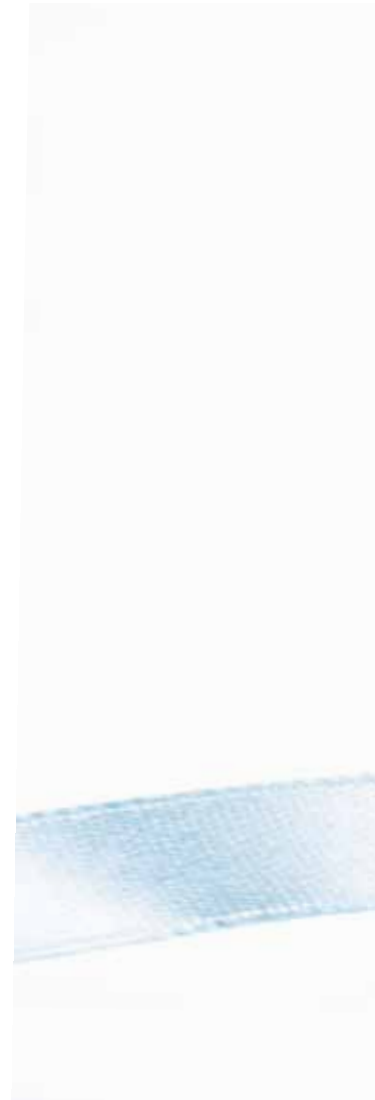
プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社

代表取締役社長

ハンキンソン 尚子 (はんきんそん ひさこ)

近年、ジュエリー業界にとって興味深い消費者の動きが見られます。それはギフト市場が質的に変化している傾向にあることです。プラチナ・ギルド・インターナショナル（以下PGI）が2015年12月に行った消費者使用実態調査によると、前回2012年の同調査と比較して宝飾店への来店頻度が下がるなど、ジュエリーに対する消費者の気持ちは後退気味です。しかしその中で変わらず強かったのが、「ジュエリーは自分で買うよりプレゼントされたい」という女性の意識でした。

ギフトで嬉しいコトとモノという調査項目において、例えば25万円という決められた予算のなかで、コトでは旅行、モノではジュエリーが欲しいがトップとなっています。この調査からはまた、女性がジュエリーを貰えるように動いているという興味深い行動が見えてきました。ファッションジュエリーは自己購入という意識が昔から強かった日本で、自分の欲しいジュエリーをプレゼントしてもらえるように、自らプロデュースするという傾向が強くなっています。クリスマスや誕生日等のギフト機会を巧みに使い、女性が能動的にギフト需要を創りだしているのが、最近の注目すべきマーケットトレンドです。



調査項目	全年齢平均	20代	30代	40代	50代	コメント
あなたはジュエリー(宝飾品)にどの程度に関心をお持ちですか (top2 非常に関心・やや関心)	38%	44%	36%	34%	40%	20代の女性はジュエリーに対する関心度が高く、44%が貴金属ジュエリーに関心を持つ。次に高い関心度は50代で40%
大切な人からもらったジュエリーは、その人との愛や絆を象徴すると思う (top2 とても・ややそう思う)	50%	62%	50%	43%	49%	「大切な人からもらったジュエリーは、その人との愛や絆を象徴する」はジュエリーに期待する態度要素の中で最も高く、特に20代で強い。
ジュエリーは自分で買うより、プレゼントされるほうが良い (top2 とても・ややそう思う)	40%	53%	46%	34%	30%	ギフトに関する態度要素では「貴金属ジュエリーは自分で購入するよりプレゼントされるほうが良い」も高く、特に20代、30代で強い。

対称：16～59歳女性 ※PGI消費者使用実態調査(2015年12月)



増える男性客

一方、従来は宝飾店のお客様は女性が圧倒的に多かったのですが、最近は男性の一人客も増えてきています。PGIが手がけるサンクスデイズ・プラチナキャンペーンでも、10年前は7～8割が女性の自己購入だったのが現在は3分の1にとどまり、カップルでの購入が3分の1、そして恋人や奥様のために男性一人での来店が3分の1という状況と聞いております。

また別の定性調査結果からも、既婚男性は、奥様の誕生日や記念日にジュエリーをプレゼントしたいという気持ちがあることが浮かび上がりました。10年以上前はジュエリーをプレゼントすると「あなた何か悪いことでもしたの」と言われてしまうのでは、という反応が男性によくありましたが、現在では、本心から奥様にプレゼントして喜んでもらいたいと思っている人が増えていきます。売り場から「男性客が増えた」、「腕時計を見



るついでにジュエリーも見ている」という話を聞くようになったのも、この結果を裏付けています。

ジュエリーを「贈ることでトラブルになるのでは」という次元から「贈りたいけれどそれをどう実現すればいいか」という次元へと進化しているのです。

プラチナ・ジュエリーは絶好の市場機会

2015年、日本の宝飾市場は前年より縮小しましたが、プラチナ・ジュエリーの販売量は3年連続で伸びています。地金安で買いやすい環境にあるのは確かですが、根本的には消費者の根強いプラチナ信仰に支えられていることは間違いありません。今年春に行なった定性調査でも、あらゆる面でプラチナの優位性が際立ち、以前と変わらず「良いジュエリーにはプラチナ」と女性たちに強く意識されています。ここ数年でプラチナ・ジュエリーの価格帯も広がりデザインバリエーションも増えました。ジュエリーでいいものはプラチナというマインド設定されている年配の女性はもちろん、ゴールドより地金価格が安くなっている今こそが、若い人にもプラチナを知ってもらえるチャンスではないでしょうか。

女性はジュエリーをギフトとして貰えるように動き、男性はプレゼントしたいという心の準備があります。そして贈って喜ばれるのはやはりプラチナ。「プラチナは愛を伝える一番の贈り物」という位置づけで、プラチナ・ジュエリーの豊富な品揃えで商機を逃さないよう準備することが、日本の宝飾市場全体を押し上げる鍵になるのかもしれない。

「二人で一緒に」を店頭側が能動的に誘導

ギフト需要を拡大させるキーパーソンは男性です。男性は蒔蓄の好きな方が多く、プラチナの希少性、変色しない永遠性、肌に優しいといった事実をほんの少し提供するだけで、たちまちプラチナに傾倒することも今回の定性調査で分かりました。キーワードとなる情報を2つ3つお伝えするだけで、より単価の高い購買につなげることができます。ただ、贈りたい気持ちや予算があっても、多くの男性にとっての難関は、「彼女の欲しいデザインが分からない」ということです。そんな彼らにとって、店頭スタッフによるさり気ない上手なアドバイスは大きな手助けとなります。とは言え、ギフトを望む女性の本心は、「一緒に買いに行こう」と言って欲しいところにあるようです。「そう言ってくれたらどんなに嬉しいか」と、こ

れは定性調査から聞こえてきた女性の本音です。

男性の一人客に対して、女性が好みそうなデザインを探すお手伝いをするのはもちろんですが、贈られる女性の心を汲んで、一緒にご来店いただくよう提案するのもひとつの手かもしれません。その際、事前に予算範囲や希望アイテム等の情報をお伺いし、女性と再来店した時にスムーズにご提案できるように準備するというアプローチもまた、遠回りのようで男性からの安心と信頼を得、再来店と購入の確率を上げる方法かと思われま。そして男性にはぜひ事前に、キーワードを用いたプラチナの正しい価値をお伝えください。

贈りたい男性の思いと贈られたい女性の思い、それらをつなぐものこそが、愛と絆を象徴する最高のギフト、プラチナ・ジュエリーではないでしょうか。

直近にギフトとして入手したプラチナ・ジュエリーへの関与度 (複数回答)	全年齢平均
プレゼントしてくれる人と一緒にお店に行った	32%
プレゼントしてくれる人と商品と一緒に選んだ	28%
サプライズ・ギフトだった (プレゼントしてくれた人が予告無しに買ってきた)	24%
このジュエリーの入手について自分から提案した	16%
下調べや商品の選択は自分でした	12%
あてはまるものはない	10%
ある程度希望を伝えて、最終的な選択はプレゼントしてくれる人に任せた	8%
具体的な商品を指定して、買ってきてもらった	6%

対称：16～59歳女性 ※PGI消費者使用実態調査(2015年12月)

2015年の世界のプラチナの供給と需要

プラチナの鉱山生産量は、2014年の5ヵ月間に及ぶストライキによる生産の落込みから、2015年には回復に転じ27%増の191.5トンに達した。南アフリカの供給量は140.7トンとなって40%増加。昨年は生産者が協調して生産量回復に取り組んだことに加え、アムプラッツによる仕掛在庫の放出も供給量を押し上げる要因となった。ドル建て価格の低迷により、事業再編や鉱山の操業停止を推測する向きも相変わらず多かったが、鉱山が実際に閉鎖されることはほとんどなく、より重視されたのは厳格な資本配分であった。ランド安と「標準的な」生産量によって昨年のコストは23%減となり、南アフリカの場合、トータルキャッシュコストのレベルではわずかながらも利鞘がプラスに転じた。

昨年、中古宝飾品からのプラチナ供給量は世界全体で4%増の16.7トンとなり、2011年以来

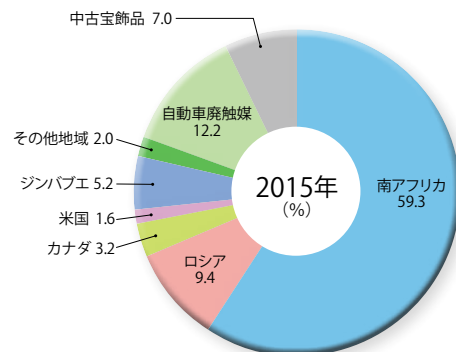
の最高水準に達した。その原動力は専ら中国のスクラップ供給量が21%も急増したことにあった。こうした中国での増加は様々な要因（中古品回収拠点の増加、投げ売りの増加、旧モデルから新商品への買い替えなど）が相俟った結果である。中国以外では、プラチナ価格の下落によって2015年のリサイクル量は大幅に減少し、日本や北米では、スクラップの供給量が10年ぶりの最低水準付近まで落ち込んだ。

2015年の使用済み自動車触媒からの供給量は2年連続の増加から減少に転じて、14%減の29.0トンまで落ち込んだ。北米や欧州といった成熟市場では、鉄鋼価格とPGM価格の下落によってサプライチェーンへの使用済み触媒の還流が抑えられたことから、スクラップの供給量が2桁の高い下落率を記録。リサイクルがまだ揺籃期にある中国やそれ以外の新興国では、スクラップ回

◆プラチナの供給（鉱山生産量とリサイクル） 単位：トン

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
鉱山生産	192.3	199.2	180.3	187.0	151.0	191.5
南アフリカ	147.7	147.4	130.1	135.9	100.2	140.7
ロシア	24.4	25.4	25.0	23.0	21.4	22.4
カナダ	4.0	8.4	6.9	6.8	8.7	7.5
米国	3.5	3.7	3.7	3.7	3.7	3.8
ジンバブエ	8.9	10.6	10.4	12.7	12.4	12.4
その他地域	3.9	3.6	4.3	4.9	4.8	4.7
リサイクル	44.2	49.7	44.6	47.8	49.9	45.7
自動車廃触媒	28.0	30.9	28.7	32.5	33.8	29.0
中古宝飾品	16.2	18.8	15.9	15.3	16.1	16.7
合計	236.6	248.9	224.9	234.7	200.9	237.2

出所：GFMS、Thomson Reuters

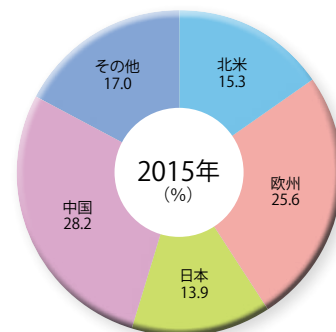


プラチナの供給（鉱山生産量とリサイクル）

◆プラチナの地域別需要 単位：トン

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
北米	29.8	33.8	35.1	35.5	36.9	36.1
欧州	60.4	61.5	56.3	53.5	57.0	60.2
日本	29.9	32.0	30.8	21.1	21.0	32.8
中国	61.5	62.7	70.8	73.0	68.3	66.5
その他	39.7	41.5	36.9	36.8	39.7	40.2
合計	221.3	231.5	229.8	219.9	222.9	235.5

出所：GFMS、Thomson Reuters



プラチナの地域別需要

※各項目を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
 (コメントは、GFMS PLATINUM & PALLADIUM SURVEY 2015 日本語ダイジェスト版より抜粋)

収量が前年の水準からかなり増加した。

需要に目を向けると、自動車触媒用プラチナ消費量は2015年に2%増の93.7トンとなった。増加傾向が続いているものの、増加ペースは地域やセクターによって異なる。オフロード車用需要は数量は少ないものの24%増加した。これに続くのがプラチナ需要にとって最も重要な小型ディーゼル車用で5%増加した。絶対量では、欧州の小型車生産台数が堅調に推移していることが追い風となり、加えて実走行下で証明されている排ガス規制の基準に適合した後処理装置を装着したOEM車への注目が増加したことも好材料であった。

プラチナ宝飾加工量は2015年に推定76.4トンとなり、4%減少した。この減少の大半を占めた中国では、経済的な圧迫から消費者の嗜好品への支出が制限された。またプラチナ価格が下落したにもかかわらず、小売店が宝飾品の店頭小売表示価格を引き下げなかったことも需要に打撃を与えた。中国以外では、欧州でも他の貴金属へのシ

フトや輸出需要の減少によって、需要が打撃を受けた。これとは対照的に、日本では金からプラチナへの切替えが見られたことで需要がやや増加し、北米の需要は確かな景気回復の恩恵を受けた。

ガラスセクターでは2015年に再び購入サイドに転換し回復が見られたが、それ以外の主要工業セクターのプラチナ需要は減少した。化学セクターではパラキシレン生産設備の大幅な縮小によって、プラチナ消費量が17%減の推定15.4トンとなった。石油セクターでは日本での需要急減によって、プラチナ需要が2015年に18%減少した。また電子材セクターでも、景気低迷と従来のパソコンからソリッドステートドライブ(SSD)を利用した機器へのシフトによって需要が落ち込んだ。

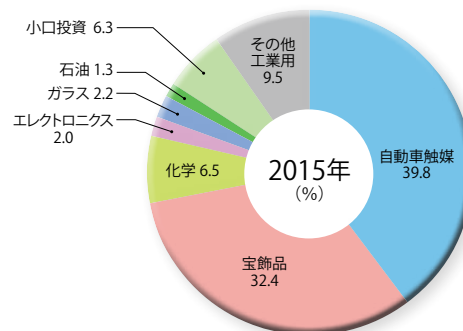
ETFへの投資需要は年間を通じて低調となり正味8.1トンが放出されたが、小口投資用のプラチナ地金需要は堅調に推移し、前年の水準の3倍以上に相当する14.8トンの史上最高水準に達した。この増加の大半は日本市場に集中していた。

◆プラチナの用途別需要

単位：トン

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
自動車触媒	90.8	93.0	88.8	88.4	92.0	93.7
宝飾品	68.5	74.3	80.4	82.3	79.3	76.4
化学	15.0	15.1	12.4	13.4	18.5	15.4
エレクトロニクス	7.8	7.0	6.1	5.3	5.1	4.7
ガラス	15.7	10.5	10.1	2.6	-1.5	5.1
石油	5.2	4.4	3.9	3.3	3.8	3.1
小口投資	3.0	9.7	8.8	4.4	4.1	14.8
その他工業用	15.4	17.4	19.3	20.2	21.8	22.4
合計	221.3	231.5	229.8	219.9	222.9	235.5

出所：GFMS、Thomson Reuters



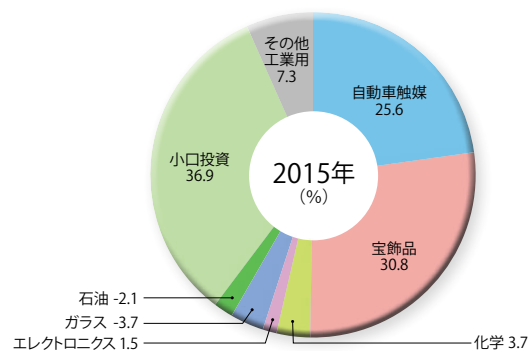
プラチナの用途別需要

◆日本の用途別プラチナ需要

単位：トン

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
自動車触媒	11.4	9.5	9.8	9.2	8.7	8.4
宝飾品	8.1	8.8	10.0	10.2	9.9	10.1
化学	1.6	1.0	0.7	0.7	1.4	1.2
エレクトロニクス	0.9	0.8	0.7	0.5	0.5	0.5
ガラス	4.4	3.4	2.6	-2.7	-3.6	-1.2
石油	0.7	0.2	0.2	-0.4	0.2	-0.7
小口投資	1.1	6.4	4.6	1.3	1.4	12.1
その他工業用	1.7	1.9	2.2	2.3	2.5	2.4
合計	29.9	32.0	30.8	21.1	21.0	32.8

出所：GFMS、Thomson Reuters



日本の用途別プラチナ需要

日本金地金流通協会・沿革と活動

協会の設立と目的ならびに会員構成

昭和54年12月、金地金の健全な取引と正しい知識の普及をはかるために発足した当協会は、皆様のご支援のもとに、36年を経過しようとしています。この間、広報、調査、教育等の活動を中心に、所期の目的を果たすべく努力を傾注し、これにより世界の金・プラチナ地金流通機構の一環として社会の信頼と世界的な相互関係を確保することが達成し得たと申せましょう。

当協会は、現在（平成28年9月）下記の構成で結束を固め、日本の金・プラチナ市場のいっそうの発展に寄与していく所存です。

正会員	24社	
特別会員	2社	
登録店	165社	
賛助会員	26社	合計 217社

協会の沿革と日本の金市場

現在の「一般社団法人 日本金地金流通協会」の沿革は、昭和22年4月に結成され、昭和28年7月に発展的に解散された「貴金属協議会」に端を発しております。

昭和28年8月に政府の金政策の転換により金管理法の一部が改正され、国内新産金の一部（後に全部）の民間放出が認められることになり、前述の貴金属協議会は発展的に解散となり、貴金属

地金商14社、1協同組合が新たに「貴金属地金協会」を結成しました。

昭和48年4月、金の輸入自由化とともにデパート等で金の販売がスタート。昭和53年、輸出の自由化も実施され、わが国では金の取引が完全に自由化されました。年々急増するわが国の金需要に関連して、金地金に関する知識や取引形態についての理解の不足などから、無秩序に出現した私設の金市場による一般消費者の被害も多発し、社会的な問題となってきました。

このような背景の中で、金地金の健全な流通機構の整備と正しい知識の普及を目的として、貴金属地金協会会員が中心となり、昭和54年12月28日、通商産業省（現・経済産業省）から社団法人 日本金地金流通協会の設立が許可され、昭和55年1月より活動を開始しました。その後、平成25年4月1日付けで一般社団法人へ移行し現在に至っております。

以降、金やプラチナの正しい取引についての啓蒙活動を積極的に展開する一方、講演会の開催、会員のための研修会開催、悪質な取引に関する注意喚起など、幅広く活動を行っております。また、平成12年4月からインターネット上にホームページを開設し、会員会社の紹介を行うとともに、一般消費者に対して金地金等の貴金属に関する各種の情報提供を行っております。

協会役員紹介

会長	古宮 誠一	石福金属興業 株式会社	代表取締役会長
副会長	山口 純	株式会社 徳力本店	代表取締役社長
副会長	山本 隆彦	山本貴金属地金 株式会社	代表取締役社長
専務理事	須江 米夫	一般社団法人 日本金地金流通協会	
理事	田苗 明	田中貴金属工業 株式会社	代表取締役社長
理事	五木田 春夫	小島化学薬品 株式会社	代表取締役社長
理事	井嶋 隆之	井嶋金銀工業 株式会社	代表取締役社長
理事	相田 英則	相田化学工業 株式会社	代表取締役社長
理事	堤田 龍治	堤田貴金属工業 株式会社	代表取締役専務
理事	大浦 良幸	大浦貴金属工業 株式会社	代表取締役社長
監事	乾 保太郎	乾庄貴金属化工 株式会社	代表取締役社長
監事	片桐 俊一	片桐貴金属工業 株式会社	代表取締役社長

正会員

当協会正会員24社が販売する金地金には、それぞれの《刻印》が押されており、信頼のシンボルになっています。



株式会社 アサカ理研
〒963-0725 福島県郡山市田村町金屋字
マセロ47
TEL.024-944-4744 FAX.024-944-4766
www.asaka.co.jp



田中貴金属工業株式会社
〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3
東京ビルディング22F
TEL.03-6311-5511 FAX.03-6311-5571
gold.tanaka.co.jp



相田化学工業株式会社
〒183-0026 東京都府中市南町6-15-13
TEL.042-368-6311 FAX.042-368-6316
www.aida-j.jp



株式会社 徳力本店
〒101-8548 東京都千代田区鍛冶町2-9-12
TEL.03-3252-0171 FAX.03-3258-1234
www.tokuriki-kanda.co.jp



アサヒプリテック株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サビアタワー11F
TEL.03-6270-1826 FAX.03-6270-1825
www.asahipretec.com



中溝貴金属工業株式会社
〒141-0031 東京都品川区西五反田3-16-7
TEL.03-3491-4141 FAX.03-3490-4550



石福金属興業株式会社
〒101-8654 東京都千代田区内神田3-20-7
TEL.03-3252-3131 FAX.03-3254-6285
www.ishifuku.co.jp



松田産業株式会社
〒163-0558 東京都新宿区西新宿1-26-2
新宿野村ビル6F
TEL.03-3345-0811 FAX.03-3345-8605
www.matsuda-sangyo.co.jp



井島貴金属精錬株式会社
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-50-10
TEL.03-3803-1705 FAX.03-3803-2492
www.ijimakk.com



株式会社 松村金銀店
〒124-0013 東京都葛飾区東立石3-8-4
TEL.03-3694-0173 FAX.03-3691-4601
www.kingin.co.jp



井嶋金銀工業株式会社
〒116-8543 東京都荒川区東日暮里5-47-10
TEL.03-3803-4341 FAX.03-3802-4775
www.ijimakk.co.jp



水野ハンディー・ハーマン株式会社
〒110-0014 東京都台東区北上野2-11-12
TEL.03-3844-6161 FAX.03-3844-6150
www.mhh.co.jp



片桐貴金属工業株式会社
〒114-0012 東京都北区田端新町3-11-2
TEL.03-3894-4111 FAX.03-3894-4178
www.katagiri-k-k.co.jp



横浜金属株式会社
〒252-0132 相模原市緑区橋本台3-5-2
TEL.042-773-4411 FAX.042-773-4775
www.yk-metal.com



小島化学薬品株式会社
〒350-1335 埼玉県狭山市柏原337-26
TEL.04-2953-9231 FAX.04-2953-9237
www.kojima-c.co.jp



株式会社 森銀
〒400-0834 山梨県甲府市落合町817
TEL.055-241-6611 FAX.055-241-7988
www.morigin.co.jp



竹内貴金属工業株式会社
〒108-0071 東京都港区白金台1-2-10
藤和白金台コープB101
TEL.03-3447-0321 FAX.03-3447-0340
www.takeuchi-kk.com



安藤貴金属精錬株式会社
〒453-0014 名古屋市中村区則武1-1-24
TEL.052-452-1678 FAX.052-451-7988
www.ando-precious.com

正会員



株式会社 坂金銀店
〒451-0044 名古屋市西区菊井1-24-18
TEL.052-571-3555 FAX.052-571-3557



山本貴金属地金株式会社
〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町3-7
TEL.06-6761-4739 FAX.06-6761-4743
www.yamakin-gold.co.jp



大浦貴金属工業株式会社
〒630-8042 奈良県奈良市西ノ京町284
TEL.0742-33-8545 FAX.0742-34-7884
www.ohura.co.jp



堤田貴金属工業株式会社
〒733-0012 広島市西区中広町2-14-23
TEL.082-293-2233 FAX.082-295-0643
www.gold-tsutsumida.co.jp



乾庄貴金属化工株式会社
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-10-8
TEL.06-6643-1234 FAX.06-6643-4598
www.prcimtl.co.jp



株式会社 松井商会
〒874-0942 大分県別府市千代町4-2
TEL.0977-22-4045 FAX.0977-23-3226
matsuishokai.net

特別会員



WORLD GOLD COUNCIL
ワールドゴールドカウンシル
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-20-709



PLATINUM
プラチナ・ギルド・
インターナショナル株式会社
〒100-8575 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテル本館5F-506

※ホームページURL冒頭の「http://」は省略しております。

貴金属の需給レポート

『GFMS GOLD SURVEY 2016』日本語版.....gold.tanaka.co.jp/statistics/index.html

『GFMS PLATINUM & PALLADIUM SURVEY 2016』日本語版.....gold.tanaka.co.jp/statistics/index.html

貴金属情報

ワールドゴールドカウンシル(英文).....www.gold.org

プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社.....www.preciousplatinum.jp

THOMSON REUTERS(英文).....thomsonreuters.com

KITCO(英文: 価格情報をリアルタイムでチャート表示).....www.kitco.com

The Bullion Desk(英文: 英語圏のニュース、レポート).....www.bulliondesk.com

登録店

■北海道

風早金銀店

〒060-0062 札幌市中央区南2条西7丁目
TEL.011-231-2213 FAX.011-231-7457

(株) 宝石の玉屋

〒060-0002 札幌市中央区北2条西3丁目-1
敷島ビル1F
TEL.011-231-4517 FAX.011-222-1892

時計・宝石いしおか

〒080-0012 帯広市西2条南8丁目
藤丸デパート6F
TEL.0155-24-0936 FAX.0155-23-3193

ヘリテージ・キムラ

〒053-0022 苫小牧市表町3-2-11
TEL.0144-34-6511 FAX.0144-36-4877

(株) ㄱ渡辺時計店

〒040-0063 函館市若松町17-9
TEL.0138-23-4111 FAX.0138-26-2818

(株) 日昇堂

〒050-0074 室蘭市中島町1-18-4
TEL.0143-44-4476 FAX.0143-44-6321

(株) 藤屋時計店

〒050-0085 室蘭市輪西町1-19-5
TEL.0143-44-5551 FAX.0143-43-8035

■青森県

(株) 丸啓

〒030-0801 青森市新町2-5-6
TEL.0177-23-2611 FAX.0177-23-2622

(株) マエバラ

〒031-0031 八戸市番町30
TEL.0178-45-6677 FAX.0178-45-6728

(株) 高橋時計店

〒035-0035 むつ市本町3-9
TEL.0175-22-3010 FAX.0175-22-3979

■秋田県

(株) 竹谷本店

〒010-0001 秋田市中通2-4-3
TEL.018-835-1331 FAX.018-832-1906

■宮城県

GINZA TANAKA 仙台店

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-5-7
TEL.022-265-4130 FAX.022-265-4131

(株) 三原本店

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-2-23
TEL.022-224-0010 FAX.022-224-0536

(株) ナガハシ

〒989-0275 白石市字本町105
TEL.0224-25-1188 FAX.0224-25-1189

(株) 天賞堂

〒989-6163 大崎市古川台町1-7
TEL.0229-23-5151 FAX.0229-23-7842

■福島県

(株) 三瓶貴金属店

〒960-8036 福島市新町2-30
TEL.024-522-8451 FAX.024-522-5538

(株) ネモト

〒970-8026 いわき市平3-24
TEL.0246-25-5566 FAX.0246-23-8089

ワタナベ

〒970-8026 いわき市平2-33-1
TEL.0246-22-2131 FAX.0246-22-2132

(株) 増子時計店

〒963-8002 郡山市駅前2-6-19
TEL.024-922-3456 FAX.024-932-2566

(有) サトウ時計店

〒965-0878 会津若松市中町1-1
TEL.0242-27-1290 FAX.0242-27-4120

(株) 石沢

〒964-0906 二本松市若宮2-154-15
TEL.0243-23-0431 FAX.0243-23-0453

■岩手県

(株) 道又時計店

〒020-0022 盛岡市大通り3-1-18
TEL.019-651-1234 FAX.019-651-1238

(有) 松村時計店

〒024-0094 北上市本通り2-3-43
TEL.0197-65-3201 FAX.0197-65-2085

(株) おくやま

〒025-0078 花巻市吹張町12-11
TEL.0198-22-3333 FAX.0198-22-6770

■山形県

(株) 平田金銀店

〒990-0039 山形市香澄町3-1-1
TEL.023-622-5540 FAX.023-641-3214

(株) 宝石の柿崎

〒996-0023 新庄市沖の町5-13
TEL.0233-22-3115 FAX.0233-22-2542

(有) サクラ堂

〒996-0023 新庄市沖の町1-5 ヤマキビル1F
TEL.0233-22-5888 FAX.0233-22-1327

(有) 佐藤正栄堂

〒997-0034 鶴岡市本町2-2-10
TEL.0235-22-0554 FAX.0235-24-9350

(株) 新光堂本店

〒994-0049 天童市南町1-1-15
TEL.023-654-5626 FAX.023-654-5621

■茨城県

(株) ジュエリーネモト

〒310-0852 水戸市笠原町300-1
TEL.029-305-1811 FAX.029-305-1671

(株) イシカワ

〒310-0021 水戸市南町3-4-8
TEL.029-225-3939 FAX.029-225-3936

(有) 中村時計店

〒306-0033 古河市中央町1-10-43
TEL.0280-22-0654 FAX.0280-22-0656

■栃木県

(有) 今泉貴金属

〒320-0023 宇都宮市仲町1-13
TEL.028-622-3573 FAX.028-624-5010

(有) トコヨ時計店

〒320-0802 宇都宮市江野町5-10
TEL.028-634-9057 FAX.028-634-9057

(株) 博泉堂

〒320-0026 宇都宮市馬場通り2-3-8
TEL.028-635-1811 FAX.028-633-3366

(株) フタバ堂

〒326-0814 足利市通2-2618
TEL.0284-22-0234 FAX.0284-20-1025

(株) ジュエルエレガンス

〒323-0829 小山市東城南1-31-7
TEL.0285-31-4866 FAX.0285-31-4867

■群馬県

ラフィーネ平田

〒371-0831 前橋市小相木町545-1
TEL.027-252-8828 FAX.027-251-0862

パルク岡村

〒372-0047 伊勢崎市本町3-23
TEL.0270-25-0131 FAX.0270-25-3211

Hearty Heart イトイ伊勢崎店

〒372-0801 伊勢崎市宮子町3423-24
TEL.0270-50-0360 FAX.0270-50-0361

■埼玉県

(株) ツツミ

〒335-0004 蕨市中央4-24-26
TEL.048-431-5111 FAX.048-444-2900

登録店

■千葉県

(株)勉強堂本店

〒260-0013 千葉市中央区中央3-15-9
TEL.043-225-1131 FAX.043-225-8292

実香宝石店

〒294-0047 館山市八幡530-1
TEL.0470-22-0665 FAX.0470-24-1508

■東京都

(株)中真堂(株)

〒133-0056 江戸川区南小岩7-24-15
小岩ステーションセンター内
TEL.03-3672-0424 FAX.03-3672-0560

(株)フジタ

〒144-0052 大田区蒲田5-8-8
TEL.03-3731-2980 FAX.03-3736-0821

(株)山口商店

〒115-0055 北区赤羽西4-1-17
TEL.03-3900-3655 FAX.03-3906-4389

(株)明光堂

〒135-0047 江東区富岡1-9-9
TEL.03-3641-1865 FAX.03-3641-2006

GINZA TANAKA 新宿店

〒160-0022 新宿区新宿3-33-10
TEL.03-3355-4143 FAX.03-3355-5321

石福ジュエリーパーツ(株)

〒110-0005 台東区上野5-22-6
御徒町みぎビル
TEL.03-3832-5241 FAX.03-3836-2063

(株)大淵銀器

〒110-0015 台東区東上野3-1-13
TEL.03-3847-7711 FAX.03-3843-1360

(株)コモキン本店

〒110-0005 台東区上野1-10-10
うさぎやビル3F
TEL.03-3836-0471 FAX.03-3836-1790

松本徽章工業(株)

〒111-0041 台東区元浅草1-12-2
TEL.03-3842-6161 FAX.03-3845-6267

(株)森銀器製作所

〒110-0015 台東区東上野2-5-12
TEL.03-3833-8821 FAX.03-3832-3762

(株)浅野商店

〒104-0061 中央区銀座8-8-5 太陽ビル10F
TEL.03-3573-1003 FAX.03-3573-2002

GINZA TANAKA 銀座本店

〒104-0061 中央区銀座1-7-7
TEL.0120-76-4143 FAX.03-3564-2658

オリエンタルダイヤモンド 丸の内店

〒100-0006 千代田区有楽町1-12-1
新有楽町ビル1F
TEL.03-3287-2801 FAX.03-3287-2802

(株)一誠堂

〒152-0035 目黒区自由が丘1-29-7
TEL.03-3717-6660 FAX.03-3718-8765

■神奈川県

松本徽章(株)

〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町5-129
TEL.045-252-5175 FAX.045-261-6446

(株)アート宝飾

〒231-0014 横浜市中区常盤町4-45
TEL.045-662-3111 FAX.045-681-6363

GINZA TANAKA 横浜元町店

〒231-0861 横浜市中区元町1-29-3
TEL.045-663-3151 FAX.045-663-3157

佐野商事(株)

〒257-0031 秦野市曾屋1175
TEL.0463-82-3500 FAX.0463-82-3501

(株)銀美堂

〒251-0047 藤沢市辻堂1-3-2
TEL.0466-36-5131 FAX.0466-36-5557

(株)和田屋

〒251-0052 藤沢市藤沢969-1-101
TEL.0466-26-2306 FAX.0466-26-2307

■山梨県

井島貴金属精錬(株)甲府営業所

〒400-0861 甲府市城東1-8-11
ルミエール愛宕山1F
TEL.0552-35-6963 FAX.0552-32-8527

(株)オプトナカムラ

〒401-0301 南都留郡富士河口湖町船津2448
TEL.0555-72-1408 FAX.0555-73-3666

■長野県

ジュエリー東京 長野店

〒380-0826 長野市北石堂町1381
TEL.026-226-5556 FAX.026-226-7770

(有)ツノダ

〒395-0031 飯田市銀座4-1
TEL.0265-23-1321 FAX.0265-23-1322

(株)マルトキ

〒396-0025 伊那市荒井22
TEL.0265-78-2266 FAX.0265-73-6977

(株)三村貴金属店

〒392-0004 諏訪市諏訪1-5-20
TEL.0266-52-0625 FAX.0266-52-0630

(株)ヤマザキ

〒392-0004 諏訪市諏訪1-3-11
TEL.0266-52-5200 FAX.0266-58-5814

■新潟県

(株)宝石のダイヤ

〒951-8063 新潟市古町通八番町1508
TEL.025-228-5833 FAX.025-225-4171

(株)早津

〒943-0832 上越市本町4-1-8
TEL.025-523-2203 FAX.025-524-0366

(株)ミヤコヤ

〒940-0062 長岡市大手通1丁目3-3
TEL.0258-36-2020 FAX.0258-32-1616

■静岡県

(株)安心堂

〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-1-9
TEL.054-254-0111 FAX.054-209-0982

(株)タカラ堂

〒420-0031 静岡市葵区呉服町2-4-4
TEL.054-254-0141 FAX.054-251-2660

オザワ宝石(株)

〒422-8042 静岡市駿河区石田3-6-13
TEL.054-283-2105 FAX.054-285-9275

(株)三青貴宝

〒410-0037 沼津市三枚橋町5-21 三青ビル
TEL.055-963-2779 FAX.055-951-0263

河合宝石店

〒430-0928 浜松市板屋町102-14
TEL.053-453-9177 FAX.053-454-1251

(株)いとう時計店

〒421-0523 牧之原市相良町波津709
TEL.0548-52-1191 FAX.0548-52-2688

■愛知県

(株)池田商店

〒460-0008 名古屋市中区栄2-5-13
TEL.052-221-7411 FAX.052-201-6900

石福金属興業(株)名古屋営業所

〒450-0002 名古屋市中村区名駅5-22-10
TEL.052-563-1201 FAX.052-563-1219

(株)サンメナード

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-5-24
ノノガワビル2F
TEL.052-962-4755 FAX.052-951-4705

(株)水溪

〒460-0008 名古屋市中区栄3-27-25
TEL.052-261-2641 FAX.052-261-7093

GINZA TANAKA 名古屋店

〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-70
TEL.052-262-0277 FAX.052-263-1580

(株)柏圭

〒460-0008 名古屋市中区栄3-9-17
TEL.052-261-7781 FAX.052-261-7713

(株)エンジェリーいのこ

〒491-0851 一宮市大江3-1-21
TEL.0586-71-7474 FAX.0586-71-7477

(株)伊藤宝石店

〒448-0844 刈谷市広小路4-209
TEL.0566-21-3124 FAX.0566-21-8205

(株)ニイミ時計店

〒475-0853 半田市南末広町120-1
TEL.0569-22-4771 FAX.0569-22-4772

ジュエリーサトウ

〒496-0071 津島市新開町1-6 ヨシツヤSC内1F
TEL.0567-23-2233 FAX.0567-23-7351

■岐阜県

(株)岩田時計舗

〒500-8876 岐阜市日ノ出町1-16
TEL.058-265-7717 FAX.058-266-0160

(株)千賀

〒500-8833 岐阜市神田町8-15
TEL.058-265-5566 FAX.058-263-5468

■三重県

(株)キタオカ

〒510-0086 四日市市諏訪栄町14-8
TEL.059-351-2552 FAX.059-354-1954

(有)日宝堂

〒516-0026 伊勢市宇治浦田3-3-33
TEL.0596-24-2180 FAX.0596-28-8100

■富山県

(株)ソシエハシツメ

〒930-0083 富山市総曲輪3-5-10
TEL.076-425-3838 FAX.076-422-3033

エルサカエ富山総本店

〒930-0818 富山市奥田町3-14
TEL.076-431-3200 FAX.076-442-1177

(株)大坪

〒933-0026 高岡市片原町155
TEL.0766-25-4255 FAX.0766-26-6165

■石川県

作田金銀製箔(株)

〒920-0831 金沢市東山1-3-27
TEL.076-251-6777 FAX.076-251-6677

(株)アルテシマダ

〒920-0854 金沢市安江町11-40
TEL.076-260-0050 FAX.076-223-0771

高岡製箔(株)

〒920-0843 金沢市森山1-30-4
TEL.076-252-3601 FAX.076-252-7765

(株)今井金箔

〒920-0968 金沢市幸町7-3
TEL.076-221-1990 FAX.076-223-1659

(株)森立志堂

〒923-0921 小松市土居原町189-2
TEL.0761-24-1388 FAX.0761-24-1384

■福井県

(株)福井ゴールドセンター奥田

〒910-0004 福井市宝永4-19-3
TEL.0776-22-3506 FAX.0776-22-3546

(株)藤井時計店

〒910-0006 福井市中央1-5-1
TEL.0776-22-3375 FAX.0776-22-3349

(株)宝石時計の武内

〒910-0006 福井市中央1-9-28
TEL.0776-30-7711 FAX.0776-30-7710

(株)川上

〒914-0054 敦賀市白銀町5-27
TEL.0770-22-0665 FAX.0770-22-6060

■京都府

(株)ゴールドスリー サイトウ

〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上ル
天性寺前町532 北原ビルB1
TEL.075-241-2468 FAX.075-254-7117

星辰屋時計店

〒623-0021 綾部市本町2-2
TEL.0773-42-2154 FAX.0773-42-2154

(有)カワモト

〒621-0818 亀岡市京町28-1
TEL.077-122-1682 FAX.077-122-2788

(株)シオミ

〒625-0036 舞鶴市字浜266
TEL.0773-62-0370 FAX.0773-64-3806

■滋賀県

(有)川原崎

〒522-0088 彦根市銀座町4-24
TEL.0749-22-0838 FAX.0749-22-7383

■奈良県

(株)エレガンスヨシダ

〒636-0003 北葛城郡王寺町久度2-13-5
TEL.0745-32-1151 FAX.0745-72-1770

■大阪府

石福金属興業(株)大阪営業所

〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-36
TEL.06-6532-1351 FAX.06-6533-6064

マルフク商会(貴金属部)

〒530-0013 大阪市北区茶屋町6-2 水野ビル
TEL.06-6373-0298 FAX.06-6372-8622

オリエンタルダイヤモンド梅田店

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4-100
大阪駅前第4ビル1F
TEL.06-6344-1821 FAX.06-6341-5708

GINZA TANAKA 心斎橋店

〒520-0085 大阪市中央区心斎橋筋1-4-21
TEL.06-6244-4143 FAX.06-6253-4110

(株)徳力本店 大阪営業所

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-11-20
GATO三休橋ビル1F
TEL.06-6252-7811 FAX.06-6252-7815

(株)新光貴

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-7-21
TEL.06-6261-0210 FAX.06-6261-0220

■兵庫県

(株)タナカ

〒670-0922 姫路市二階町51
TEL.079-225-1212 FAX.079-225-1215

木谷貴金属(株)

〒650-0022 神戸市中央区元町通1-5-10
TEL.078-332-5757 FAX.078-391-3664

(株)元町時計店

〒650-0022 神戸市中央区元町通1-8-5
TEL.078-331-1712 FAX.078-331-1860

K.G.B.神戸ゴールドバンク

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中6-9 1R-07
神戸ファッションコート1F
TEL.078-891-8711 FAX.078-891-8733

(株)ミヤコ

〒675-0065 加古川市加古川町篠原町13-4
TEL.079-422-2232 FAX.079-425-2243

■和歌山県

(株)セキネ イオンモール和歌山店

〒640-8451 和歌山市中宇橋谷573 イオンモール
和歌山1F
TEL.073-455-5700 FAX.073-455-5770

■岡山県

(株)田中時計店

〒700-0822 岡山市北区表町2-2-81
TEL.086-225-2361 FAX.086-232-4448

(株)トミヤコーポレーション

〒700-0822 岡山市北区表町2-2-83
TEL.086-212-1038 FAX.086-235-6565

菅田(株)

〒708-0841 津山市川崎1902-3
TEL.0868-25-1231 FAX.0868-23-1232

(株)不二屋宝飾店

〒708-8520 津山市新魚町17 アルネ津山1F
TEL.0868-22-3914 FAX.0868-22-3918

■鳥取県

(株)中井脩

〒680-0831 鳥取市栄町623
TEL.0857-23-5221 FAX.0857-22-8338

(株)米子中井脩

〒683-0804 米子市米原7-1-14
TEL.0859-33-5566 FAX.0859-22-2219

登録店

■島根県

(有) 創美堂

〒690-0843 松江市末次本町29
TEL.0852-21-4100 FAX.0852-27-4100

(株) アツタ

〒693-0004 出雲市渡橋町1210
TEL.0853-22-5530 FAX.0853-22-5531

(株) ニッタ

〒697-0037 浜田市新町11-3
TEL.0855-23-1141 FAX.0855-23-1145

■広島県

浅田貴金属

〒736-0081 広島市安芸区船越4-6-12
TEL.082-823-2931 FAX.082-823-2931

(株) ナカオカ

〒730-0033 広島市中区堀川町5-10
TEL.082-246-7788 FAX.082-246-4300

(有) 松林貴金属商会

〒730-0003 広島市中区白島九軒町3-10
TEL.082-222-6361 FAX.082-222-6361

(株) 麻生

〒720-0043 福山市船町1-1
TEL.084-926-2538 FAX.084-931-2911

■山口県

(株) 山本時計店

〒753-0043 山口市宮島町8-4
TEL.083-924-3210 FAX.083-924-3218

(株) ジュエルセブン

〒750-0025 下関市竹崎町4-4-8
TEL.083-235-0123 FAX.083-261-1377

■徳島県

(株) 池田時計店

〒770-0904 徳島市新町橋1-11
TEL.088-622-2770 FAX.088-623-4194

(株) ハラダ

〒770-0912 徳島市東新町1-21
TEL.088-622-6872 FAX.088-655-1236

(株) ヨシイ時計店

〒772-0003 鳴門市撫養町小桑島字前浜23-9
TEL.088-685-3589 FAX.088-685-8866

(株) ジュエリー ピコ

〒771-0212 板野郡松茂町中喜来字前原東5-9-2
TEL.088-699-3339 FAX.088-699-6669

■香川県

(株) 柿屋

〒760-0040 高松市片原町9-7
TEL.087-821-5440 FAX.087-821-5447

(有) はなや

〒760-0029 高松市丸亀町6-6
TEL.087-822-0777 FAX.087-822-0778

■高知県

(株) 大西時計店

〒780-0841 高知市帯屋町1-13-20
TEL.088-823-0024 FAX.088-823-0025

■愛媛県

桜産業(株)

〒790-0012 松山市湊町3-8-5
TEL.089-941-7111 FAX.089-941-7115

(有) ササキ時計店

〒794-0015 今治市常盤町2-6-1
TEL.0898-32-2126 FAX.0898-32-2124

(株) 木藤時計店

〒798-0040 宇和島市中央町1-5-7
TEL.0895-25-2255 FAX.0895-24-5109

■福岡県

(株) ジャパンゴールド

〒810-0041 福岡市中央区大名1-14-45
Qiz TENJINビル3F
TEL.092-771-8200 FAX.092-761-8361

GINZA TANAKA 福岡

西鉄グランドホテル店

〒814-0041 福岡市中央区大名2-6-60
西鉄グランドホテル1F
TEL.092-712-4143 FAX.092-712-4166

宝石のエトウ飯塚店

〒820-0042 飯塚市本町11-26
TEL.0948-22-0480 FAX.0948-23-2779

石福金属興業(株)九州営業所

〒802-0002 北九州市小倉北区京町3-13-13
TEL.093-531-9331 FAX.093-551-7548

(株) 小林時計店

〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-6
TEL.093-521-0013 FAX.093-522-7735

(株) ナカノ

〒802-0006 北九州市小倉北区魚町2-3-22
TEL.093-521-0453 FAX.093-521-9575

ゴールド アンド アサヒ

〒830-0032 久留米市東町34-67
TEL.0942-37-3802 FAX.0942-37-3803

■長崎県

(有) 和光

〒850-0901 長崎市本石灰町1-7
TEL.095-821-6363 FAX.095-827-7431

(資) 山之内時計眼鏡店

〒855-0804 島原市万町500
TEL.0957-62-3003 FAX.0957-64-3003

ゴールドジュエリー タナカ

〒857-0875 佐世保市下京町4-21
TEL.0956-23-8084 FAX.0956-23-8087

■佐賀県

(株) ニシムラ

〒840-0824 佐賀市呉服元町2-20
TEL.0952-22-6781 FAX.0952-24-5773

■熊本県

ジュエラーキヨタ本店

〒860-0845 熊本市中央区上通町7-3
TEL.096-324-1010 FAX.096-324-6501

(有) 恒松時計店

〒868-0501 球磨郡多良木町大字多良木555-2
TEL.0966-42-2382 FAX.0966-42-6567

■宮崎県

日高本店

〒880-0001 宮崎市橘通西3-10-24
TEL.0985-26-1101 FAX.0985-26-1024

■鹿児島県

(有) 共立時計店

〒891-0141 鹿児島市谷山中央2-4185
TEL.099-268-3061 FAX.099-260-1444

■沖縄県

(株) 鉢嶺本店

〒900-0006 那覇市おもろまち4-3-8
TEL.098-860-6777 FAX.098-860-3775

(株) 山城時計店

〒900-0015 那覇市久茂地3-3-2
TEL.098-867-3093 FAX.098-861-7074

賛助会員

■鉱山

住友金属鉱山(株)

〒105-8716 東京都港区新橋5-11-3
新橋住友ビル3F
TEL.03-3436-7841

中外鉱業(株)

〒100-6312 東京都千代田区丸の内2-4-1
丸の内ビルディング 12F
TEL.03-3201-1542

東邦亜鉛(株)

〒100-8207 東京都千代田区丸の内1-8-2
鉄鋼ビルディング6F
TEL.03-6212-1711

DOWA メタルマイン(株)

〒101-0021 東京都千代田区外神田4-14-1
秋葉原UDXビル22F
TEL.03-6847-1204

日鉄鉱業(株)

〒100-8377 東京都千代田区丸の内2-3-2
郵船ビル6F
TEL.03-3216-5265

日本鉱業協会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町
3-17-11 榮葉ビル8F
TEL.03-5280-2321

古河メタルリソース(株)

〒100-8370 東京都千代田区丸の内2-2-3
丸の内仲通りビル3F
TEL.03-3212-6840

三菱マテリアル(株)

〒101-8338 東京都千代田区内神田2-16-11
内神田渋谷ビル9F
TEL.03-5298-3851

パンパシフィック・カッパー(株)

〒100-8147 東京都千代田区大手町1-1-2
JXビル18F
TEL.03-6257-7584

■商社

住商マテリアル(株)

〒104-0053 東京都中央区晴海1-8-8
晴海トリトンスクエアオフィスタワーW5F
TEL.03-5144-0506

三井物産(株)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1
TEL.03-3285-1111

三菱商事RtMジャパン(株)

〒100-7027 東京都千代田区丸の内2-7-2
JPタワー27F
TEL.03-5221-1770

双日(株)

〒100-8691 東京都千代田区内幸町2-1-1
飯野ビル24F
TEL.03-6871-2327

■装身具

日本貴金属製鎖工業組合

〒110-0015 東京都台東区東上野1-26-2
オーラム505号室
TEL.03-3836-1704

(一般社)日本ジュエリー協会

〒110-8626 東京都台東区東上野2-23-25
TEL.03-3835-8567

日本貴金属協同組合

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-29-6
TEL.03-3803-5535

中川装身具工業(株)

〒111-0052 東京都台東区柳橋1-29-7
TEL.03-3861-2111

■その他

(株)ADI.G

〒920-0841 石川県金沢市浅野本町1-10-10
TEL.076-251-0115

(株)シラネ

〒460-0012 名古屋市中区千代田2-4-8
TEL.052-261-4636

鈴木貴金属化工(株)

〒332-0001 埼玉県川口市朝日4-21-52
TEL.048-222-3450

ユミコアジャパン(株)

〒107-0061 東京都港区北青山1-2-3
青山ビル5F
TEL.03-5413-9347

(株)東京貴金属地金店

〒110-0005 東京都台東区上野5-21-7
TEL.03-3836-0050

(株)榎島貴金属精錬所

〒116-0014 東京都荒川区東日暮里6-32-14
TEL.03-3806-5945

(株)八木橋

〒360-0047 埼玉県熊谷市仲町74
TEL.048-523-1111

(株)吉井商店

〒920-0902 石川県金沢市尾張町1-10-30
TEL.076-221-1678

(株)MARUWA

〒488-0044 愛知県尾張旭市
南本地ヶ原町3-83
TEL.0561-51-0841

GOLD
&
PLATINUM
2016 No.37

発行日：平成28年9月30日

発行人：古宮 誠一

編集人：須江 米夫

発行：一般社団法人 日本金地金流通協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-9 第2桐治ビル2F

TEL.03-5207-5371(代表) FAX.03-3254-8663

<http://www.jgma.or.jp>

本誌の記事・写真などの無断転載を禁じます。

安心・安全な取引は、協会加盟店で

一般社団法人 日本金地金流通協会は、各種の広報活動を通じて

金・プラチナの正しい知識の普及に努めています。

金・プラチナの地金、コイン、ジュエリーなどのお取引やお問い合わせは、

信頼ある当協会会員各社のご利用をお勧めします。



一般社団法人 **日本金地金流通協会**

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-3-9 第2桐治ビル2F

TEL.03-5207-5371 (代表)



ワールドゴールドカウンシル
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-20-709



プラチナ・ギルド・インターナショナル株式会社
〒100-8575 東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテル本館 5F-506